

GRADUATE SCHOOLS OF JAPAN COLLEGE OF SOCIAL WORK

日本社会事業大学大学院

専門職大学院

福祉マネジメント研究科

実践力とマネジメント力の向上を目指す

研究大学院

社会福祉学研究科

社会福祉の課題を科学的に解明する

日本の社会福祉を
先導する
2つの大学院

フロンティアで究めよう。

社会福祉とソーシャルワークの深奥へ

1946年に政府からの委託を受け、

日本初の社会福祉・ソーシャルワークの専門教育機関として創立された日本社会事業大学。

日本の社会福祉に変革をもたらすリーダーを育成するべく、

「専門職大学院福祉マネジメント研究科」と

「研究大学院社会福祉学研究科」を設置しています。

ソーシャルワークの現場で高度な専門性を発揮して活躍する人。

社会福祉学分野で実践的かつ学術的な新しい知見を見いだす人。

誰かの幸せを願い、探究するその人の想いに本大学院は応えます。

福祉研究の原点にして「フロンティア（最前線）」であるこの場所から、

未来を切り開くその挑戦を加速させましょう。

日本社会事業大学大学院

INDEX

教員インタビュー	04	研究大学院社会福祉学研究科	18	学費／奨学金	32
2つの大学院	06	博士前期課程(修士課程)	20	入試概要	34
専門職大学院福祉マネジメント研究科	08	博士後期課程(博士課程)	22	説明会／アクセス	35
カリキュラムの方針と構造	10	教員×院生対談	24		
履修形態とキャリア形成支援	12	教員紹介	25		
教員×院生対談	14	修了生の声	28		
教員紹介	15	学長メッセージ／沿革	30		
修了生の声	16	組織図	31		

教員インタビュー

一步踏み込んだ議論の中に 新たな気づきや発見がある

児童相談所を中心に地方自治体で29年間勤務し、2022年に本学に着任しました。専門職大学院には福祉に関連する様々な領域の実践者が集まっています。みなさんに感じるのは課題意識と行動力の高さです。

私のゼミはこども家庭福祉分野に関心のある方が参加されています。児童相談所など児童福祉に関するソーシャルワーカーや、医療・保健分野の専門職も在籍していました。それぞれこども・若者に関わる仕事に従事し、そこで感じた葛藤や悩みを何とか言語化し、現場に還元できるように取り組んでいます。本当にみなさん熱心で、課題に対し真摯に向き合う姿勢が素晴らしく、私が教えられることも多いと感じます。

ゼミ活動はレポートとディスカッションが中心です。それぞれが自分の研究テーマを発表し、全員で議論します。異なる立場や専門性を尊重し、率直な意見交換をすること、役立つ質問を投げかけ合うこと、他者の問いを受け吟味することなどを大切にしています。お互いが相手の話をしっかり聞き、話すことを繰り返す中で、新しい気づきや想定していた以上の発見がある。そういう場をみんなで作り上げていきます。

ゼミで学会参加もしています。2023年の「日本子ども虐待防止学会」ではゼミ生も発表しました。学内では須江ゼミの院生の発案で、映画をテーマにした特別授業を企画したこともあります。

修了生の中には、実践課題研究の取り組みが認められて事業化した人や、職場の中に新たにソーシャルワーカーのポストを認めてもらった人など、研究成果を社会実装させている方がたくさんいます。いま、現場で何か葛藤を感じている方、より良い支援をしたいと考えている方は、ぜひ専門職大学院に入学し、志の高い仲間と切磋琢磨して前へと進んでほしいです。



専門職大学院 福祉マネジメント研究科

須江 泰子 講師

〔研究テーマ〕
子ども家庭福祉、支援者支援、
児童虐待対応と予防、ソーシャルワーク人材育成

日本の社会福祉学の原点である本学は、「福祉のリーダーを養成する」という使命のもと、日々の教育や研究に取り組んでいます。専門職大学院の須江先生、研究大学院の佐々木先生のインタビューから、最新の教育内容や研究成果をご紹介します。

医療保険をはじめとする社会保険を深掘り。 社会保障制度の在り方を問う

私は社会保障の中でも医療保険を中心に研究しています。特に関心があるのは医療保険を運営する保険者(※1)の在り方です。

日本では被用者(雇用者)を対象にした健康保険が大正時代に作られました。1961年には国民が数種ある医療保険のどれかに加入することになる「分立型国民皆保険体制」が確立しました。しかし、高齢化や医療費の増加、非正規雇用やフリーランスで働く人の増加などで、加入区分やそれらがもたらす格差が問題になり、制度が時代に合わなくなってきています。この現状を今後どうしていくのか、医療保険だけではなく、社会保障制度全体の動向も踏まえながら考えています。

また、日本には75歳以上の高齢者が加入する後期高齢者医療制度という仕組みがありますが、これは世界的に見れば特殊です。なぜこのような制度が作られたのかを研究し、今後の制度の在り方につなげていきたいです。

いま関心があるのは「貧困に対する社会保険の効果」です。社会保険は貧困を防ぐ機能(防貧)があるといわれていますが、それほど貧困を防ぐ効果があるのでしょうか。もちろん高齢者の貧困など個別具体的な問題は多く議論されていますが、130兆円を超えるお金を社会保障に使いながら相対的貧困率が高いのはなぜか。そしてどのような方法で明らかにできるのかも含めて考えていくつもりです。

院生のみなさんは、まずしっかりと先行研究を読み、テーマとする制度の現在や歴史的経緯について理解した上で、研究を進めてください。熱意も大切ですが、主張ありきでは見るべきものが見えてこないことがあります。

私の研究はこれまで多くの人たちに支えられてきました。それは指導教員の研究や学内の先生方だけではなく、院生仲間や、学会や外部の研究会で会った人々も含みます。社会福祉を学ぶなら現場とのかかわりも大きいでしょう。そのような関係性も大事にしてください。

※1…保険の運営主体。

研究大学院 社会福祉学研究科

佐々木 貴雄 准教授

〔研究テーマ〕
社会保障、社会政策

専門職大学院 福祉マネジメント研究科

実践研究を通じ現場の最前線で求められる人に

社会が大きく変化するなかで、私たちは社会福祉を普遍的なニーズとして認識するようになりました。しかしながら、それと同時に、生活困窮、虐待、孤立、社会的排除、貧困の連鎖など、複雑で深刻な問題を抱える人々は増え続け、自らの実践と経験だけでは解決できない状況が次から次へと生まれています。

「分野を越えて学びたい」「これまでの実践を振り返りたい」「支援のあり方を見つめ直したい」「人材育成の方法を学びたい」「福祉経営の知識を体系的に獲得したい」。専門性を深め、視野を広げること。チームや組織を理解し、他機関との連携を進めること。これらのニーズに応え、高度な福祉人材を育成することが、専門職大学院福祉マネジメント研究科のミッションです。

身につく力

福祉の現場経験を糧として学びなおし
実践力とマネジメント力の向上を目指します。

- 1 ソーシャルワーク実践力の向上
- 2 スーパービジョン
- 3 福祉人材の育成
- 4 組織と現場のマネジメント
- 5 実践現場の変革



専門職大学院 福祉マネジメント研究科 Q&A

Q. 研究大学院との違いは
なんですか？

A. 実践現場で働きたい人が
学びます。

研究大学院は研究者の育成に重点を置き、専門職大学院は実践家の育成に重きを置いています。実践力とマネジメント力の向上を目指します。

Q. 働きながら学べますか？

A. 働きながら学びやすい環境を整えています。

2年間で計画的にカリキュラムを履修できる長期履修制度があります。必要性が認められ、許可された場合に利用できます。また、オンライン（同時双方向型遠隔授業）・対面どちらでも受講ができるハイブリッド授業があります。詳細はP.9のPick Upをご確認ください。

Q. 専門実践教育訓練給付制度について教えてください。

A. 学費の一部を支給する
雇用保険の給付制度です。

標準修業年限(1年)で修了する2025年4月入学生で雇用保険の加入期間等条件を満たした方が申請できます。給付額の上限は56万円です。

こんな人にオススメ

☐ 支援のあり方を見つめ直したい ☐ 人材育成や福祉経営の基本を体系的に学びたい など

研究大学院 社会福祉学研究科

科学的研究を通じ福祉現場をより良いものに変えられる人に

福祉に求められるものは時代とともに変わります。そこで必要となるのが、現状での課題をしっかりと捉え、さまざまな視点から検証し、将来に向けて新しい提案ができる専門家です。本大学院では、より良い社会福祉実践を実現するために、研究的な視点を持つ実践者、および実践的な研究者を育成しています。

博士前期課程(修士課程)

現代のさまざまな福祉ニーズを科学的に明らかにし、その解決に有効な援助方法や支援モデル、福祉制度・政策のあり方を追求する方法を身につけます。

前期課程で身につく力

- 1 社会福祉援助方法を科学的に追求する能力
- 2 社会福祉実践プログラムを科学的に追求する能力
- 3 社会福祉制度・政策のあり方を科学的に追求する能力
- 4 社会福祉理論を科学的に追求する能力

博士後期課程(博士課程)

自立した研究能力を持ち、社会福祉実践の向上に役立つ研究を行って社会に影響を与えることのできる実践研究者および実践の中で、研究ができる人材を育成する教育研究者を養成します。

後期課程で身につく力

- 1 研究課題を科学的に追求する自立した研究能力
- 2 社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に資することのできる高度の実践研究能力
- 3 社会福祉学の豊かな学識
- 4 国際的、学際的な視野から各専門領域で活躍できる能力

研究大学院 社会福祉学研究科 Q&A

Q. 他大学院との
交流はありますか？

A. はい。大学院社会福祉学専攻
課程協議会に加盟しています。

本学を含め13校の福祉系大学院で構成する大学院社会福祉学専攻課程協議会に加盟しています。他大学院の科目を委託聴講したい場合は、指導教員の了解のもと2単位1,000円で10単位を限度として委託聴講できます。

Q. 働きながらでも通えますか？

A. 福祉現場や教育機関の方など、
大勢の社会人学生の方が本学で学んできました。

授業は講義や研究演習、論文指導のすべてを木・金・土曜日に集中して開講しています。授業形態も、対面だけでなく、多くの授業がオンライン受講できるため、今まで以上に両立しやすくなっており、遠隔地からの進学も増えていきます。

Q. 教育訓練給付制度は
適用されますか？

A. 指定講座となっているので、
適用されます。

研究大学院(博士前期課程)は、一般教育訓練給付制度の指定講座となっています。給付条件の対象となる方に費用の20%(上限10万円)が支給されます。

こんな人にオススメ

☐ 社会福祉に貢献できる実践的研究者・研究的実践家を目指す ☐ 研究者・実践家を育てる教育者を目指す など

専門職大学院 福祉マネジメント研究科

専門実践教育訓練給付金制度
厚生労働大臣指定教育訓練講座

実践とマネジメントの両輪で、
現場にイノベーションを
もたらす。

8つの特長

- 1 実践力の向上を目指す**
基本の再確認と最新の動向・技法を学び、
対人支援専門職としての実践力の向上を目指します。
- 2 マネジメントできる力の獲得**
現場のサービス向上を図り、チームや組織をマネジメント
できる力の獲得を目指します。
- 3 組織のあり方等について振り返り言語化**
事例研究やスーパービジョンを通して、自身や所属組織の
あり方等について振り返り言語化します。
- 4 認定社会福祉士の単位を取得**
多数の講義が、認定社会福祉士の大学院ルートに位置づ
けられています。
- 5 1年間で修士(専門職)の学位を取得**
最短で1年間、現職継続者で長期履修者の場合には2年間
で、修士(専門職)の学位が取得できます。
- 6 遠隔地でも仕事をしながら学べる**
オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド授業を導入し
北海道や沖縄など遠隔地からの入学者も増えています。
- 7 アクセスが便利**
対面授業は、清瀬キャンパス(西武池袋線「清瀬」駅からバ
ス6分)と文京キャンパス(東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅
から徒歩5分)で行います。
- 8 多様な仲間との出会い**
多様な仲間との交流や自由で対等な議論を通して、すぐに
役立ち、生涯にわたるネットワークが築けます。

教育理念

日本社会事業大学専門職大学院は、社会福祉分野における高度で専門的な職業能力を有する人材の養成を目的として、日本で最初に開設された福祉専門職大学院です。人権の尊重、社会正義の実現、共生への責任、多様性の尊重といったソーシャルワークの価値に基盤を置き、人々のニーズと社会の変化に対応し、実践の改善と開発を進め、社会の変革と人々のウェルビーイングの実現に貢献できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

本学では、教育目標を実現するために、以下のような方を入学者として求めています。

- ア.自己と他者を、人格を持つ個人として尊重できる人
- イ.人々のウェルビーイングは、その人が置かれた環境と深く関係しているという考え方を理解し、その人をとりまく環境である家族、組織、地域及び社会に対して関心を高く保ち、これらの環境の改善や改革に取り組む意志を有する人
- ウ.自身の社会福祉実践力の向上はもとより、自己が属する組織や団体の福祉実践力、あるいは地域や社会の福祉力の向上に意欲や関心を有する人
- エ.社会福祉などの対人援助実践、あるいは社会福祉などの機関・組織・事業所において運営管理の業務に携わり、自らの実践を幅広く振り返る経験を有する人

「アドミッション・ポリシー」の詳細は
本学Webサイトをご確認ください。



修業年限	1年(標準修業年限) 2年(長期履修制度を利用する場合)
定員	50名
学位	福祉マネジメント修士(専門職)

研究科長メッセージ



先行き不透明な時代にこそ
福祉が果たす責務がある。

福祉マネジメント研究科
研究科長

鶴岡 浩樹 教授

少子高齢化、多死社会、人口減少、度重なる災害、格差拡大など、先行き不透明な、VUCAと呼ばれる現代において、福祉の重要性は益々高まっています。専門職大学院ではこのような時代の現場を支える福祉専門職、すなわち、状況を的確に見極め、柔軟に対応し、ソーシャルアクションや社会変革をもたらす専門職の養成を目指します。

今年で20周年を迎えた本研究科は、日本で最も歴史のある福祉系専門職大学院です。20年の歳月を経て確立されたりカレント教育の手法をもとに、今日的なカリキュラム、オンライン授業の活用、時間割など仕事を続けながら学べる体制を整え、現場経験豊富な講師陣が指導にあたります。多様な専門職、さまざまな立場の方々が集い、意見を交わしながら学び合い、実践力とマネジメント力を高めていきます。

本研究科で教育の核となるのは、経験を学びに変える力で、言語化、省察、対話、批判的思考という4つの力を磨いていきます。最新理論による学びと実践への活用を繰り返して考察を深め、職場や地域に実践知をもたらし、地域共生社会の一端を担うことのできる省察的实践家を養成します。

Pick Up

仕事と両立しやすい授業形態

授業は木・金曜日夜と土曜日で実施します。そのうち、木曜日はオンライン授業のみ、金曜日はオンライン授業が中心ですが一部ハイブリッド授業です。土曜日は対面授業が中心ですが、一部、オンライン授業があります。演習は対面を原則としつつ、一定割合オンラインで受講できます。

※ハイブリッド授業とはオンラインと対面のどちらでも受講が可能な授業形態です。

※オンライン授業は全て同時双方向型遠隔授業です。

※オンラインで受講する場合は、各自にてインターネット環境、ノートPC等によるWebカメラ、マイクを用意していただく必要があります。



» カリキュラムの方針

» カリキュラムの構造

履修形態とキャリア形成支援

社会福祉領域は実践と学問の距離が近い分野です。専門職大学院では、仕事と学びの両立を積極的に支援する体制を整えることで、実践を学びに活かし、学びを実践に活かす、この循環を促します。長期履修制度、修了後の学びを支援する修習生制度、認定社会福祉士の研修認証科目などを整えています。

» 履修形態

1年間 | 通常履修の流れ

4月	●入学式 ●オリエンテーション ●指導教員決定
6月	●実践研究計画書提出 前期の実践研究計画を提出する。 ●学内学会(日本社会事業大学社会福祉学会)
9月	●実践研究中間報告会 前期に取り組んだ実践研究について発表する。
10月	●実践研究計画書提出 後期の実践研究計画を提出する。
1月	●実践研究報告書の提出
2月	●実践研究報告会 実践研究を含めた学びの総括を発表する。
3月	●学位授与式(修了式)

標準修業年限は1年です。この場合、金曜日の午後に演習(年10回程度)があります。平日(木・金)の講義・演習はオンラインと対面(文京キャンパス)を中心に実施します。土曜日の講義と演習(年20回程度)は清瀬キャンパスと文京キャンパスにわかれます。平日日中も学びにあてることができる方は、研究大学院の授業を履修・聴講できます。

〈1年履修例〉 ※2024年度参考						
	月	火	水	木	金	土
1限(9:00～10:30)						講義
2限(10:40～12:10)						
3限(13:00～14:30)						演習 10回
4限(14:40～16:10)						
5限(16:20～17:50)						演習 20回
6限(19:00～20:30)						
7限(20:40～22:10)				講義	講義	

2年間 | 長期履修の流れ

1年次	
4月	●入学式 ●オリエンテーション ●指導教員決定
6月	●実践研究計画書提出 1年目の実践研究計画を提出する。 ●学内学会(日本社会事業大学社会福祉学会)
1月	●実践研究中間報告会

仕事と学びの両立を支援するために長期履修制度を設けています。必要性が認められ、許可された場合に利用できます。平日(木・金)の講義はオンラインと対面(文京キャンパス)を中心に実施します。土曜日の講義と演習(年15回×2年)は清瀬キャンパスと文京キャンパスにわかれます。

2年次	
6月	●実践研究計画書提出 2年目の実践研究計画を提出する。 ●学内学会(日本社会事業大学社会福祉学会)
12月	●実践研究報告書の提出
1月	●実践研究報告会 実践研究を含めた学びの総括を発表する。
3月	●学位授与式(修了式)

〈2年履修例〉 ※2024年度参考						
	月	火	水	木	金	土
1限(9:00～10:30)						講義
2限(10:40～12:10)						
3限(13:00～14:30)						演習 15回
4限(14:40～16:10)						
5限(16:20～17:50)						2年で 計30回
6限(19:00～20:30)				講義	講義	
7限(20:40～22:10)						

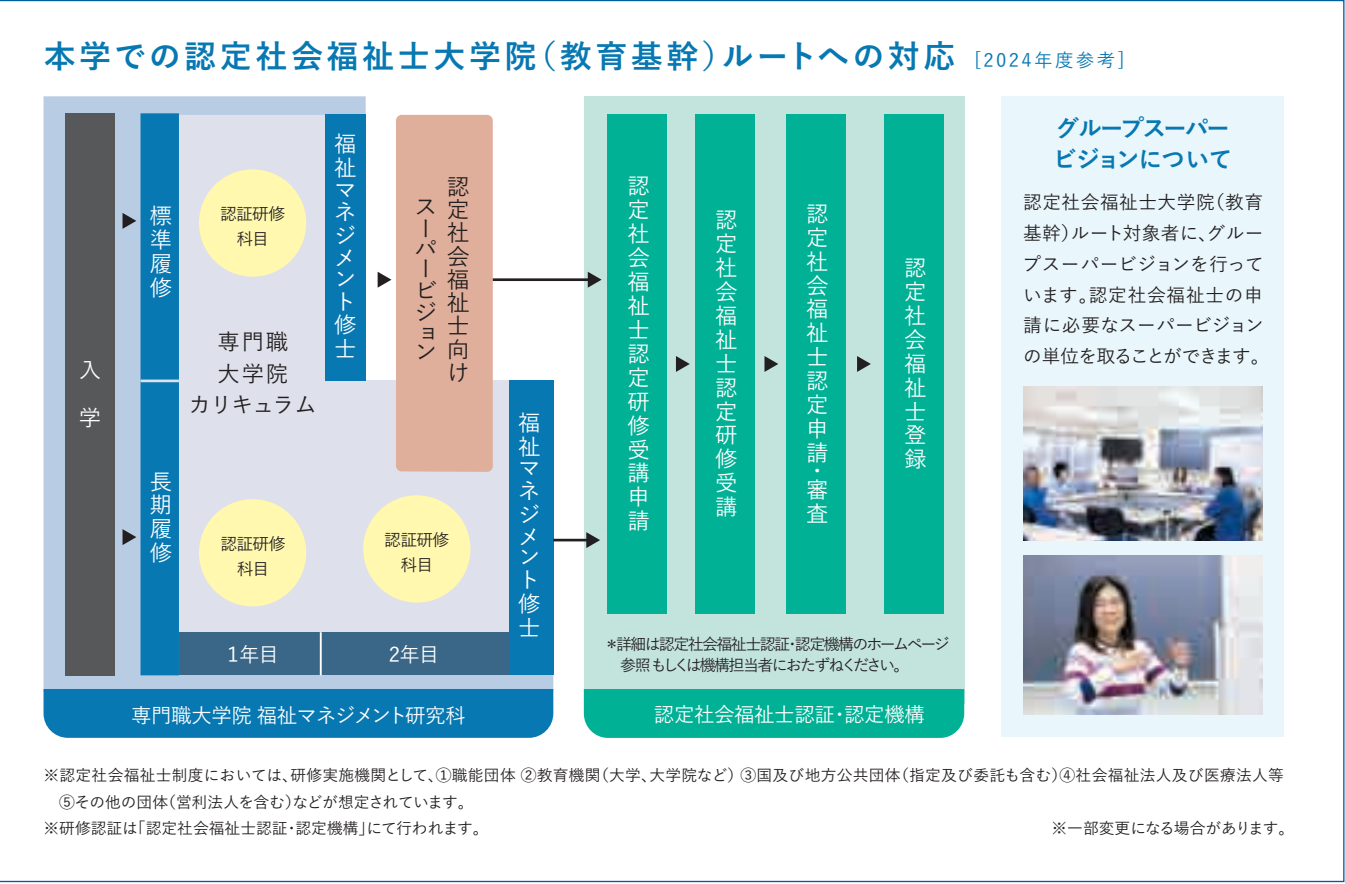
修習生制度	専門職大学院を修了後、手頃な費用負担で学びを継続できる制度です。講義の聴講が可能です。 1年更新で原則2回まで利用できます。専門職大学院修了後、一定期間、実践に集中した後制度を活用することも可能です。
-------	---

» キャリア形成支援

充実したカリキュラムで認定社会福祉士を養成

社会福祉士の上位資格として、認定社会福祉士が設けられています。本学専門職大学院で開講している授業のうち26科目は認定社会福祉士の研修科目として認められています(2024年度)。認定社会福祉士認証・認定機構は2020年度に、認定社会福祉士の取得ルートに「大学院(教育基幹)ルート」を新設しました。これにより、本学専門職大学院在籍中に、「大学院(教育基幹)ルート」で必要とされる18単位のうち、スーパービジョン実績を除く認証研修科目の16単位を選択し単位修得することが可能となります。またスーパービジョンについても、在学中もしくは修了後一定期間内において、本学スーパーバイザー教員に希望することができます。

※認定制度の詳細は、認定社会福祉士認証・認定機構ホームページでご確認ください。



認定社会福祉士制度とは

高度な知識と卓越した技術を用いて、個別支援や他職種との連携、地域福祉の増進を行う能力を有する社会福祉士のキャリアアップを支援する仕組みとして実践力を認定する「認定制度」で、「認定社会福祉士」及び「認定上級社会福祉士」の2種があります。「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正時に衆議院及び参議院で附帯決議された「専門社会福祉士及び専門介護福祉士の仕組みについて、早急に検討を行う」に基づき実施され、制度運営、研修実施団体の認証、認定社会福祉士・認定上級社会福祉士の認証は、「認定社会福祉士認証・認定機構」にて行われます。

詳細は、認定社会福祉士
認証・認定機構ホームページ
<https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/>

認定社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う人であり、所属組織を中心とした分野における福祉課題に対し、倫理綱領に基づき高度な専門知識と熟練した技術を用いて個別支援、他職種連携及び地域福祉の増進を行うことができる能力を有することが認められた人です。

認定上級社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う人であり、福祉についての高度な知識と卓越した技術を用いて、倫理綱領に基づく高い倫理観を持って個別支援、連携・調整及び地域福祉の増進などに関して質の高い業務を実践するとともに、人材育成において他の社会福祉士に対する指導的役割を果たし、かつ実践の科学化を行うことができる能力を有することを認められた人です。

教員×院生 対談



専門職大学院
福祉マネジメント研究科
渡辺 達也 さん

専門職大学院
福祉マネジメント研究科
北川 進 講師

さまざまな視点からの助言により実践経験が言語化されて整理されていく過程を通して、ゼミの醍醐味を実感

渡辺 私は法人を設立して精神障がい者の就労支援事業に携わっていましたが、児童虐待の事件に衝撃を受けたことをきっかけに地域の中で子育て世帯の役に立ちたいという思いが強くなり、職場に「親子教室」を開設。7年間の実践を通して多くの母子に支援を提供してきましたが、これまでの実践を通じて得た経験と知識をより広く社会に還元したいと考えようになりました。そこで、専門職大学院で実践経験の言語化と整理ができればと考え、進学を決意しました。

北川 専門職大学院を選ばれる方で、自身の実践を言語化して伝えたいと考えて来られる方は多いです。渡辺さんもこれまでの実践を振り返り、言葉にしていこうということだったので、私からの一方的な指導にならないよう、渡辺さんの思いを引き出して形にするお手伝いをしたいと考えていました。

渡辺 ありがとうございます。実践経験の言語化と整理は困難な作業でしたが、先生とゼミ生がひとつのチームとなって取り組み、自分では気づかない視点からさまざまな助言をいただけたおかげで、自分のこれまでの実践が言語化され、それらが意味を持ち、整理されていくというゼミの醍醐味を感じることができました。

北川 私はとにかくゼミの場は、みなさんが安心して自分の思いを素直に語り、自分に向き合ってもらえる場所であってほしいと願っています。皆さんは本当に熱い思いと豊富なスキルを持っているので、自然と院生同士で活発にやり取りが進み相互作用していけるように働きかけるのも教員である私の役割だと考えています。これまで実践経験してきたことに向き合って、自身の思いや経験で得たものをしっかり話し合えるのが専門職大学院の特長です。そのために院生のみなさんには、いつも自分自身の思いと向き合ってもらいたいです。また、渡辺さんに限らず専門職大学院にいらっしゃるみなさんにお伝えしたいことですが、ここでの学びはゴールではなく、次の実践につなげるためのプロセスであり、さらなるステージに向かうための研究だということを心に留めておいてほしいと思います。

さまざまな分野のゼミ仲間が集まっているからこそ自身の実践課題を伝える力が向上したことを実感

八重樫 私は地域の基幹相談支援センターで所長として勤務している中で、障がいのある方への支援を進めていくにあたり、その家族への対応について悩んでいました。そんな時に家族システム論に触れる機会があり、家族全体を捉えるアセスメントには実践だけでなく理論が必要だと実感し、スーパービジョンと家族支援をテーマに研究されていた木戸先生の元で学びたいと考えました。

木戸 八重樫さんははじめ、実践研究テーマとして人材育成と家族支援を掲げていましたが、履修1年目は研究課題が漠然としていて苦労しましたね。それでもゼミ生達とのディスカッションを通してこれまでの実践と理論の結びつけや言語化を進めた結果、実践研究テーマを見つけていきました。

八重樫 はい。ゼミの仲間は福祉のさまざまな分野から集まっていたので、自身の問題をどのように伝えたら伝わるのかを、木戸先生のご指摘をいただきながら言語化に取り組むことで、課題が整理され明確になっていくのを感じました。

木戸 課題意識があってこの専門職大学院を選んできているゼミ生たちが、それぞれが抱えている問題を言葉にし共有しないとゼミは進みません。みなさんは現場での経験があるからこそさまざまな相互作用が期待でき、学びを広げていけるのです。専門職大学院は、院生たちが仕事上で葛藤して悩んでいる課題について理論と実践を結びつけて次の展開に進むための場なので、それぞれがもつ実践経験が一番大切だと思います。自分の経験というものを理論にしっかり結びつけ、どう還元するか、どう言葉にしていこうかということを学びたいと考えている人にぜひ来ていただきたいです。

八重樫 私はこれから今回の研究にご協力いただいた相談員の方々と、研究結果としてまとめた相談支援ガイドを共有していきたいという思いがあります。また、職場でスーパービジョンをしなくてはならない立場なので、この2年間で学ばせていただいた実践を理論に結びつけて説明する力を活かし、ただ経験則に従うのではなく理論に基づいて説明し、意味づけをするということを心がけていきたいと思います。



専門職大学院
福祉マネジメント研究科
八重樫 譲 さん

専門職大学院
福祉マネジメント研究科
木戸 宜子 教授

教員紹介

※専門演習Ⅰ・Ⅱ、実践課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
〔担当科目は2024年度開講科目〕 「SW」はソーシャルワーク、「SV」はスーパービジョンの略称です。 QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。



【担当科目】
※／実践の省察と評価／実践研究方法論／福祉人材育成論／インタープロフェッショナルワーク／高齢者支援・医療分野事例研究／在宅療養支援の方法／高齢者保健福祉研究／福祉と疾病

【略 歴】
1993年、順天堂大学医学部卒業。自治医科大学地域医療学教室、岩手県藤沢町民病院、ケース・ウェスタン・リザーブ大学家庭医療学講座、自治医科大学附属病院総合診療部外来医長を経て、2007年、つるかめ診療所開設。2013年より現職。認知症サポート医。

【主な研究分野】
地域医療、プライマリ・ケア、在宅医療、多職種連携、福祉人材育成、EBM、介護ロボット



【担当科目】
※／実践研究方法論／SVI／ジュネリックSW／インタープロフェッショナルワーク／医療・地域ケア分野事例研究／SWアプローチ／家族システムズアプローチ／SWの価値と規範

【略 歴】
1989年、日本社会事業大学卒業。社会福祉士。1990年、国立東京病院ソーシャルワーカーとして勤務。2002年、日本社会事業学校研究科専任教員。2003年、日本社会事業大学大学院博士後期課程修了。博士(社会福祉学)。2004年、日本社会事業大学専門職大学院助教授を経て現職。

【主な研究分野】
地域を基盤としたソーシャルワーク実践・理論、ソーシャルワークスーパービジョン



【担当科目】
※／認知症ケアの基礎理論／ニーズとイノベーション／福祉アドミニストレーション

【略 歴】
日本大学商学部会計学科卒業、筑波大学院人間総合科学研究科生涯発達専攻カウンセリングコース修了、介護福祉士ファーストステップ研修講師、社会福祉士、認知症介護指導者、社会福祉法人恵仁福祉協会理事長を歴任。一般社団法人全国認知症介護指導者ネットワーク代表、NPO法人全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会理事長。

【主な研究分野】
施設機能の地域分散、施設での中重度対応に向けた取り組み



【担当科目】
※／子ども家庭福祉の理論と方法／児童虐待対応SW／子ども家庭福祉分野事例研究／SVII／社会的養護実践論／SW面接技法／実践の省察と評価

【略 歴】
1992年、立教大学文学部教育学科卒業。2003年、筑波大学大学院修士課程教育研究科カウンセリング専攻修了。社会福祉士、公認心理師、臨床心理士。浦和市役所を経て埼玉県庁入職。児童相談所勤務21年。東京大学医学部附属病院精神神経科を経て2022年4月より現職。

【主な研究分野】
子ども家庭福祉、支援者支援、児童虐待対応と予防、ソーシャルワーク人材育成

鶴岡 浩樹 研究科長 教授

総合医として地域医療に従事して32年目。大学病院、一般病院、診療所、介護保険施設など地域を舞台に様々な設定で、保健・医療・福祉・介護に関わる方々と仕事をしてきました。この経験を活かし、皆さんと共に現場の課題を考えていきたいと思います。

木戸 宜子 教授

昨今、ソーシャルワーク実践、スーパービジョンが注目されてきています。実践者として専門性を高めるには、実践のふりかえり、意味づけが必要です。そのために実践の根拠としてのソーシャルワーク理論・アプローチを重視し、実践内容を客観的に分析し、考察する視点を養っていきたくと考えます。

宮島 渡 特任教授

これまでの法人及び施設経営の経験と地域包括ケアシステムに向けた取り組みが皆さんの実践研究の一助になれば幸いです。

須江 泰子 講師

実践上の課題や葛藤に向き合う方たちが、志のある仲間とディスカッションを重ね、複雑な社会課題を多様な視点から共に考えあう場にしていきたいと思っています。



【担当科目】
※／実践の省察と評価／サービス管理論／組織行動論／居住福祉

【略 歴】
1990年、日本女子大学卒業。清水建設勤務を経て、横浜国立大学工学研究科修了。博士(工学)。2001年、国立医療・病院管理研究所 主任研究官。組織再編により国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 上席主任研究官。2012年より現職。一級建築士、社会福祉士、宅地建物取引士。

【主な研究分野】
高齢者福祉、居住支援、高齢期の住まい、福祉人材育成、福祉経営



【担当科目】
※／障害者支援分野事例研究／障害者の地域生活支援と協議会／共生社会の仕組みとデザイン／成年後見と意思決定支援／障害者支援の理論と方法／発達障害の理解と支援

【略 歴】
1982年、文教大学教育学部卒業。2020年、東洋大学大学院ライフデザイン学研究科修士課程修了。社会福祉士。埼玉県社会福祉事業団、社会福祉法人昴、東松山市社会福祉協議会、障害児・者の入所施設、通園施設、グループホーム、相談支援事業等の現場職員、管理職を経験した後、2012年、厚生労働省障害福祉課・専門官を経て現職。

【主な研究分野】
障害者福祉、障害者虐待防止、差別解消、成年後見制度、意思決定支援、共生社会の実現



【担当科目】
※コミュニティSW／生活困窮者支援／地域共生分野事例研究／共生社会の仕組みとデザイン／SWの価値と規範／災害SW

【略 歴】
1996年、日本社会事業大学卒業。東北福祉大学大学院総合福祉学研究科修士課程修了。児童養護施設指導員を経て宮城県社会福祉協議会入職。主に地域福祉業務に携わり、2012年4月より2年間、東日本大震災被災地である石巻市社会福祉協議会に派遣され、ささえあい総括センター所長として被災者支援業務に従事。震災から11年間被災者支援業務を担当。2023年4月より現職。社会福祉士。

【主な研究分野】
災害時ソーシャルワーク、災害ボランティア支援、社会福祉協議会における地域福祉展開

▶ 客員教授 ※黒字:担当科目

蒲原 基道 客員教授	社会保障総論
▶ 兼任教員(本学教員) ※黒字:担当科目	
小田 美季 教授	障害福祉研究
小原 真知子 教授	SW理論研究
貴川 信幸 教授	研究課題設定論 福祉プログラム評価論総論
木村 容子 教授	SW理論研究
菱沼 幹男 教授	地域福祉研究
倉持 香苗 准教授	地域福祉研究
内田 宏明 准教授	子ども家庭福祉研究
佐々木 貴雄 准教授	福祉政策研究

▶ 非常勤講師 ※黒字:担当科目

土屋 佳子 講師	スクールSW	江畑 直樹 講師	組織開発
木幡 伸子 講師	家族システムズアプローチ	亀岡 保夫 講師	福祉会計Ⅰ
松山 毅 講師	SWの価値と規範	光吉 直也 講師	福祉会計Ⅱ
猶木 貴彦 講師	労働法規	村田 麻起子 講師	チームマネジメント
大櫛 重光 講師	職場のメンタルヘルス	林 晃弘 講師	人的資源管理論
梅津 寛子 講師	リスクマネジメント	古茶 宏志 講師	人的資源管理論
園田 巖 講師	保育SW		



1年履修

実践での経験から
相談の価値を見出す

横田 太二郎さん
2024年3月 専門職大学院 福祉マネジメント研究科 修了
社会福祉法人和光市社会福祉協議会 勤務

研究テーマ

老人福祉センターにおける相談の傾向や特徴の把握と
より良い施設運営に関する研究

キャリアが長くなるにつれて、仕事における自分自身の価値観が固定化され視野が狭くなっているかもしれないと感じ、立ち止まって振り返る機会を得たいと考えて進学しました。自身の経験から、老人福祉センターにおける相談が他部署における相談支援とは異なるという感覚を持っていたので、その相談の傾向や特徴を明らかにし、支援の質向上に活かしたいと考え研究に取り組みました。研究の結果、老人福祉センターの相談は、相談を通じて相談者とながり続ける事に価値があると分かりました。また、大学院での真剣に福祉に向き合う仲間に出会った環境は刺激的で、忘れかけていた福祉を志した初心を取り戻しました。本大学院で身につけた、理論と実践を何度も振り返る手法は、修了後も活用していきます。

学問と仕事を両立する工夫 職場の理解と大学院での仲間づくり

夜に講義がある日は残業なしで帰宅させて頂いたり、朝から講義がある日は有給休暇を取得させて頂くなど、配慮をして頂きました。また、本大学院では仲間と共に学びを深め合う雰囲気があり、様々な福祉分野で活躍する院生の仲間からも多くを学び、苦しい時には支えて頂きました。



1年履修

研究結果がまとめられた
報告書を活用し
職場で新たに提言

弓田 香織さん
2024年3月 専門職大学院 福祉マネジメント研究科 修了
長野県教育委員会事務局 南信教育事務所 勤務
スクールソーシャルワーカースーパーバイザー

研究テーマ

スクールソーシャルワーカーの
人材確保の取り組みと展望について

県教育委員会のスクールソーシャルワーカー（SSW）として 15 年程活動する中で、福祉専門職の人材確保が困難な現状に直面し、SSW の人材育成と人材定着について研究するために進学しました。職務にやりがいや成長を感じながら学校現場に定着していくために必要な取り組みや体制に着目し、SSW 仲間へのインタビューやグループディスカッションを通して分析を行いました。その結果、長期的視点に立った人材育成計画が必要であることが明らかになり、実践研究報告書は職場への提言としても活用しました。先生方の熱意と院生たちからの刺激を感じながら理論と実践が交差する研究ができ、充実した時間を過ごせました。今後は、得られた研究結果と院での学びを活かし、持続していく SSW 体制づくりに取り組んでいきたいです。

学問と仕事を両立する工夫 対面のゼミを楽しむ

自宅からキャンパスまで片道 4 時間半以上かかり、仕事が多忙な時期の通学は大変でしたが、ゼミに対面参加することになれるものが多く、週末が待ち遠しくてなりません。職場の理解と協力を得た上で、ゼミを思い切り楽しみにキャンパスに足を運んだことが、仕事と研究を両立できたことにつながったと思います。



2年履修

「生きづらさを語る会」がもつ
場の力を言語化し
学生研究奨励賞を受賞

佐々木 旭美さん
2024年3月 専門職大学院 福祉マネジメント研究科 修了
任意団体 いそのさんち

研究テーマ

役割から降りることを支え合える地域へ
—精神障がい当事者、家族、支援者が生きづらさを語る会Zの実践—

大学で学んだ知識と経験値だけで働くことに限界を感じていましたが、3年前の日本精神保健福祉士協会全国大会(北海道大会)をきっかけに進学を決意しました。専門職大学院は多分野から個性的で素晴らしい方々が集まっていますので、様々な意見を聞き思考を深めることができました。取り組んだのは、役割を超えて生きづらさを語る会についてです。過疎地における地域活動の実践を振り返り、会に参加する当事者、家族、支援者の役割意識が変化していく過程とその要因を分析しました。結果をもとにした研究で学生研究奨励賞を受賞しました。今後は会の活動を続けながら、場の力を言語化する研究と結果を活かした地域づくりを実践していきたいです。

学問と仕事を両立する工夫 週末の有効活用

北海道の自宅から大学までは片道7時間半かかったので、週末は金曜日から2泊3日で上京し、日曜日の午後戻ってきて月曜日から働く日々を過ごしました。時間も体力もお財布も厳しかったのですが、それだけ価値のある貴重な時間でした。



2年履修

初めてのマネジメントで
直面した課題に
研究で見出した道筋

江原 顕さん
2024年3月 専門職大学院 福祉マネジメント研究科 修了
横浜市役所 健康福祉局障害福祉保健部
松風学園 勤務

研究テーマ

政令指定都市の区役所におけるソーシャルワーカーの人材
育成を推進する体制 ～A市B区の実践を通じての考察～

区役所で初めて生活保護や生活困窮者支援を担当する管理職になった際、大勢のソーシャルワーカーに対するマネジメントを経験しました。リーダーとして果たせる役割について悩んだことをきっかけに、本大学院に進学しました。仕事で直面していた課題をテーマに研究したことで、問題点を明らかにし、解決の道筋を見出せました。授業では視察に足を運ぶ機会も多く、全国の先進事例に触れられたので、参考になりました。漠然と募らせていた「障害福祉をよくしたい」という思いを、本大学院の学びを通じて実現に向けて具体的に考えられるようになりました。ここで生まれた先生や院生との人脈を大切にしながら、ともに福祉を盛り上げていきたいです。

学問と仕事を両立する工夫 オンライン授業の活用

仕事を終えた後で受ける平日の授業は、疲れもあり大変でした。それでもオンラインで授業を受けられるなど、授業後にすぐに休める負担の少ない学びができるため、大変助かりました。また、べ切り間際に課題を片付けるタイプの性格でしたが、余裕をもって取り組むために計画をたてるようにしました。

実践研究テーマ

講義で得た理論や解釈を用いて自らの実践を省察し、抽出された新たな課題に意図的に取り組みます。この一連の過程が実践研究です。

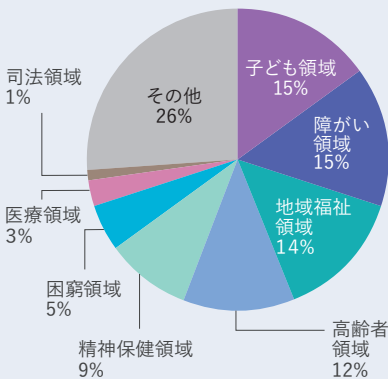
〈2023年度〉

- 円滑な事業継承への考察
～自分たちらしい文化とスピリッツを手渡す～
- 特別調整者が抱える困り感の解消に向けた支援の在り方について
～地域生活定着支援センターでの実践から見えてくるもの～
- 社会的問題としての「DV」を考察する
～ジェンダーレス、だれもが相談できる地域社会の実現を目指して～
- 利用者支援を促進する個別支援計画のあり方とは
～救護施設Zの記述分析から～
- 県立高校におけるソーシャルワークと校内連携
～ソーシャルワークの開始を多角的にとらえる～
- Z市基幹相談支援センターにおける総合的な相談支援のあり方について
～障害者手帳未所持者の相談から見えるもの～
- 組織マネジメントの一考察について
～経営と現場をつなぐ過程を通して～
- チームでメンバーを支える仕組みづくりに関する考察
～母子生活支援施設での実践から～

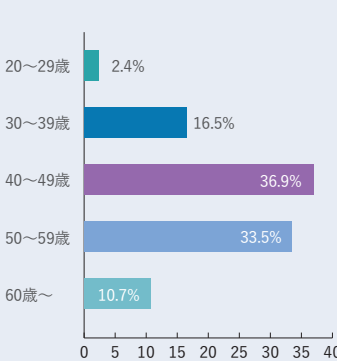
- チーフの役割を通してみる都市部児童相談所の課題とその解決に向けた実践について
- 強度行動障害のある人を、地域で支えていくこと
～実践事例を他県などの取り組みとの比較から考察し、検証する～
- 意思表示の難しい盲重複障害児の表出された感情や行動を事実に基づき解釈することを通じて支援者の意識や支援の変化を明らかにする
～Z施設での取り組みを通じて～
- Z市保健所における中堅職員が行う後輩育成のサポートについて
～中堅職員の分かち合いの場の必要性～
- 職場のwell-being向上のための精神保健福祉士(MHSW)の専門性
～産業精神保健分野で活動するエキスパートMHSWのインタビュー調査から～
- 役割から降りることを支え合える地域へ
—精神障がい当事者、家族、支援者が生きづらさを語る会Zの実践—
- 精神障がいがある人の地域生活を支える相談支援専門員のかかわり
～ベテラン相談支援専門員へのインタビュー調査から～
- 自身の業務を振り返り居宅介護支援専門員の専門性を考察する
～ケアマネジメントにおけるソーシャルワーク性を通して～

数字で見る専門職大学院

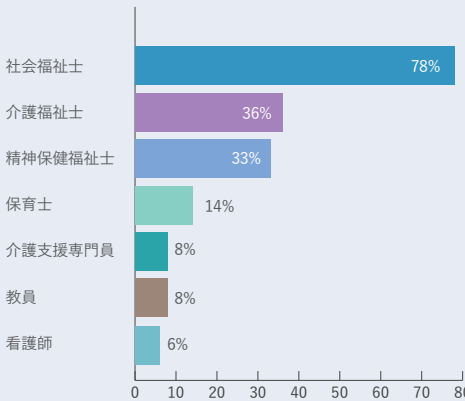
〔領域別〕 ※2023年度修了者



〔年代別〕 ※2020年度～2024年度入学者



〔保有している資格〕 ※2024年度入学者



研究大学院 社会福祉学研究科

社会福祉を学術的に探究し、
社会課題解決の
糸口を見出す。

4つの特長

1 実践的な「研究能力向上」に 力を注ぐ大学院

今日の社会福祉は、福祉現場での実践にしても、行政での政策・計画の立案・実践・評価にしても、計画と研究を抜きには進められなくなっています。本研究科では、実践研究者としての、あるいは研究的実践家としての「研究能力」を高めることを主眼としています。

2 学びの概要(博士前期課程・博士後期課程)

博士前期課程(修士課程)は、講義・演習・修士論文指導を体系的に学べる、「領域別研究」と「研究方法論」等の科目で構成しています。博士後期課程(博士課程)は、博士論文指導と論文作成に至るまでの予備審査で構成しています。

3 人材輩出

博士前期課程は「社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践研究者及び研究的実践家の養成」、博士後期課程は「社会福祉実践の向上や発展に資することのできる高度の実践研究者および研究的実践家の養成」「社会福祉実践の向上や発展に貢献する優れた実践家・研究者を育成できる教育者の養成」を主たる目的とし、新しい社会福祉系大学の教育・研究モデルの構築を目指しています。

4 福祉プログラム評価履修コースを開設

社会福祉学研究科では、2010年4月より「福祉プログラム評価履修コース」を開設。プログラム評価とは、よりよい社会プログラムを構築し、改善を図り、その存廃や発展の方向性に関する意思決定をするために行われる体系的かつ科学的なアプローチ法のことです。効果的な福祉プログラムの形成・向上に強い影響力をもつプログラム評価者および評価研究者の育成を目指しています。

研究能力向上に力を注ぐ大学院

社会福祉学研究科は、複雑化してきている社会福祉問題、学際化してきている社会福祉研究に対応して、社会福祉学の理論化と社会福祉実践に必要な技術の修得に関する研究と教育を進めることを目的に設置されました。

今日の社会福祉は、福祉現場での臨床実践にしても、行政での政策・計画の立案・実践・評価にしても、評価と研究を抜きには進められなくなっています。前期課程では、社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者・研究的実践家を、後期課程では、社会福祉実践の向上の発展に資することのできる高度の実践的研究者・研究的実践家・教育者を育成します。

アドミッション・ポリシー

求める学生像

本学大学院社会福祉学研究科博士前期課程では、社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者及び研究的実践者を養成する目的で、以下のような人材を求める。博士後期課程では、研究者として自立して研究活動を行い高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に資することのできる高度の実践的研究者及び研究的実践者、ならびに優れた実践者・研究者を育成できる教育者を養成する目的で、以下のような人材を求める。

1. 研究に基づく社会福祉実践向上への強い目的意識を有する者

現代社会の変化に伴って変動する社会福祉のニーズに対して常に鋭敏な関心をよせ、それらのニーズをもつ人への有効な支援のあり方を科学的に解明して、社会福祉理論、政策及び実践の向上に資することに強い目的意識と熱意、使命感を有する者。

2. 社会福祉理論、政策及び実践の研究を遂行する能力を有する者

現代社会の多様な社会福祉ニーズの解明と科学的な問題解決、社会福祉理論、政策及び実践の向上への貢献を行うために、必要な社会福祉学の基礎知識と総合的な学力を有し、柔軟で論理的な思考により社会福祉理論、政策及び実践の研究を遂行しようとする者。

3. 国際的な視点を有する者

アジアを含めて広く世界の社会福祉に関心を寄せ、国際的な視点をもって活躍したいと考える者。

4. 生涯にわたる自己研鑽する者

生涯教育やリカレント教育によって、生涯にわたって自己研鑽に励もうと考える者。

博士前期課程(修士課程)

修業年限	2年(昼間)
定員	15名
学位	修士(社会福祉学)

博士後期課程(博士課程)

修業年限	3年(昼間)
定員	5名
学位	博士(社会福祉学)

研究科長メッセージ



多彩な知見を持つ
教員と仲間が社会に
貢献する研究を深める。

社会福祉学研究科
研究科長
森 千佐子 教授

社会福祉の実践に貢献する実践者や研究者の育成を目指す本研究科では、博士前期と後期の体系的な教育課程によって研究力を育みます。前期課程では、社会福祉の課題に対し、援助方法や実践プログラム、制度政策のあり方、理論等を科学的に追求する能力を養います。後期課程では、研究課題を科学的に追求する自立した研究能力、社会福祉理論・政策、実践の向上・発展に寄与する実践研究能力、社会福祉学の豊かな学識、国際的・学際的な視野から各専門領域で活躍する能力を身に付けます。

教鞭を執るのは社会福祉とその周辺領域の多様な専門分野で実践・研究に取り組む教員たちです。ゼミや授業を通じて知見を得るだけでなく、研究計画発表会や中間報告会の際には、多角的な視点で研究内容への助言を得ることができるよう。また、さまざまな経歴やバックグラウンドを持つ院生同士が意見交換することで、自身の研究を深めることができます。

入学者の方々には、課題解決にむけて必要なことを探究し、研究を進めていただきたいと思います。そして、研究成果を社会に還元する方法をともに考えていきたいと思います。

Pick Up

福祉の古典を 数多く所蔵する図書館

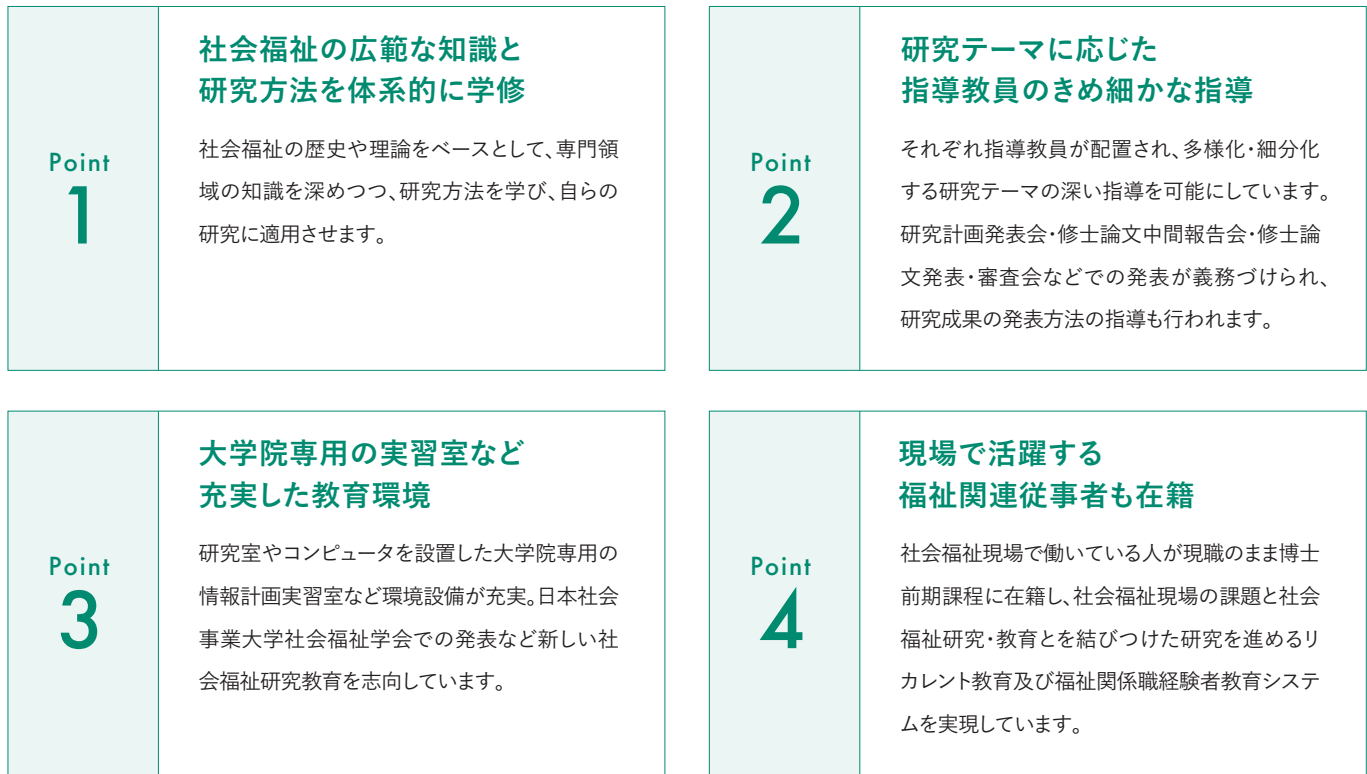
本学図書館は、中央社会事業協会(現在の全国社会福祉協議会)が1934(昭和9)年に設置した「社会事業研究所図書室」の蔵書を引き継いで開設し、大学附属図書館として教員・学生の教育・研究・学習に資する国内外の図書資料の整備拡充に努めています。そのため、戦前の貴重な図書・資料とともに、戦後の社会福祉の重要な図書・資料も豊富に所蔵しています。現在蔵書数は26万点に達しています。



博士前期課程（修士課程）

一般教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座

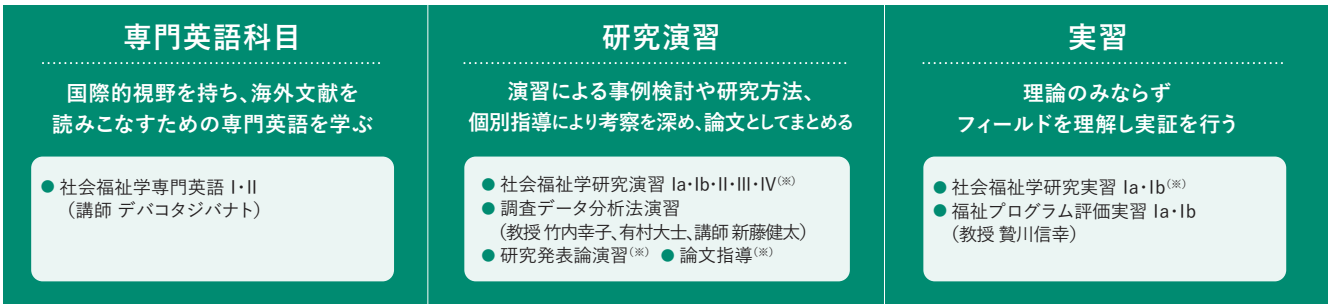
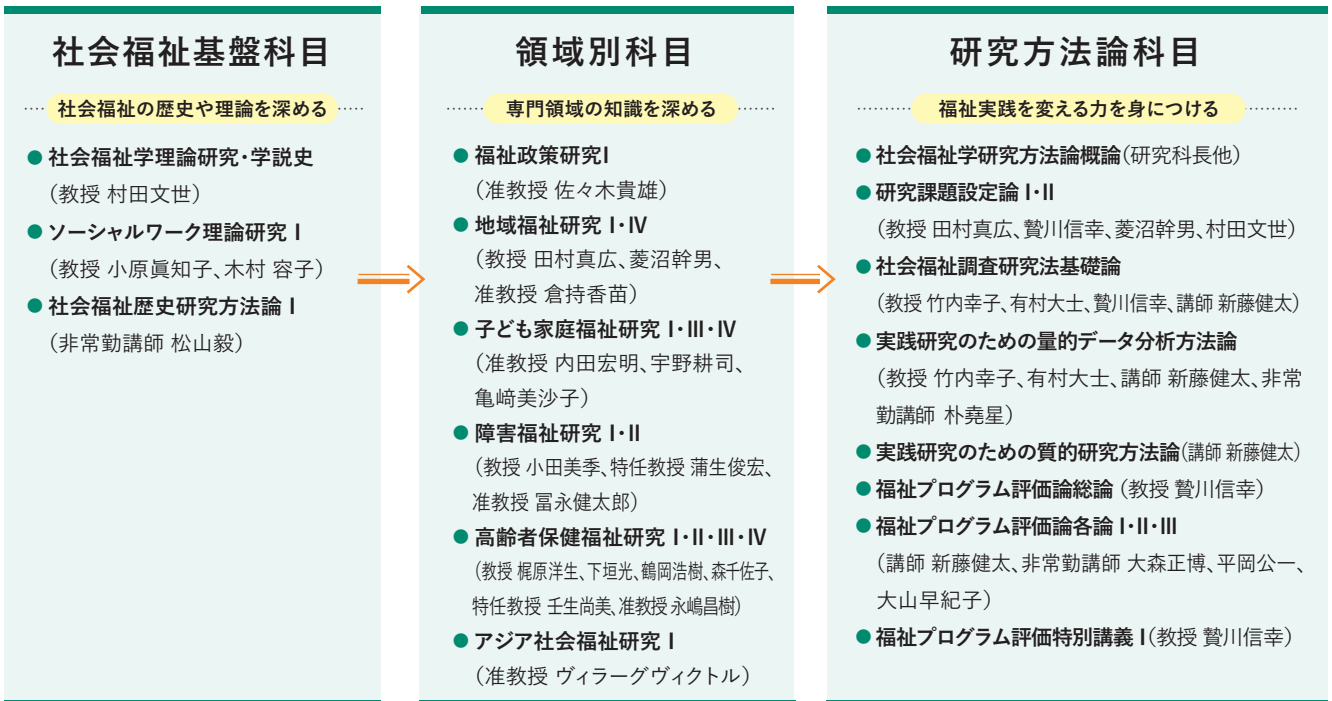
社会福祉学の理論化と、社会福祉実践に必要な技術の修得に関する研究と教育を進めます。



博士前期課程2年間の流れ



カリキュラムの構造（2024年度参考）



（※）2024年度 演習・実習・論文指導 担当教員

教授：有村大士、小原真知子、梶原洋生、木村容子、下垣光、竹内幸子、田村真広、鶴岡浩樹、賛川信幸、菱沼幹男、村田文世、森千佐子
特任教授：蒲生俊宏、壬生尚美
准教授：ヴィラーグヴィクトル、内田宏明、宇野耕司、亀崎美沙子、佐々木貴雄

開講科目系列時間配置

大学院の授業を木・金・土曜日に集中。社会福祉現場との共存・共修がしやすい時間割構成としています。
※一部の科目は、他の曜日に開講する場合があります。

	月	火	水	木	金	土
1時限（9:00～10:30）				講義 研究演習 論文指導		
2時限（10:40～12:10）						
3時限（13:00～14:30）						
4時限（14:40～16:10）						
5時限（16:20～17:50）						
6時限（18:00～19:30）						

一部の科目が認定社会福祉士制度 研修認証科目に認証（社会福祉士有資格者対象）

認定社会福祉士認証・認定機構が認定している「認定社会福祉士」の認定制度の研修として、本大学院の7科目（12単位）が2021年度より認証されています。2020年9月から認定社会福祉士の取得ルートに、新たに「大学院（教育基幹）ルート」が新設され、在籍している大学院で対象の認証科目を12単位取得した場合に適用されます。

詳細は、認定社会福祉士認証・認定機構のホームページをご確認ください。
<https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/index.html>



博士後期課程（博士課程）

新しい社会福祉研究と教育を担う「研究者の養成」を主な目的としています。

Point 1

複数教員による研究サポート

大学院生は論文指導教員の中から主指導教員、その他の教員の中から1名を副指導教員とし、それぞれの担当教員から研究指導を受けます。福祉政策、地域福祉、ソーシャルワーク実践、福祉プログラム評価、保健医療福祉、子ども家庭福祉、障害福祉、介護福祉を担当する教員が研究指導科目を開講しています。

Point 2

3段階の予備審査、綿密な指導の下で、博士論文を執筆

博士論文の審査については、第1次予備審査から第3次予備審査までのプロセスを経て、最終審査、最終試験を受けます。予備審査では、1年次から3年次までの各段階における研究計画書等の申請書類を提出し、その計画書等に基づき、口述試験が行われ、第2次予備審査に合格した者は博士論文執筆に取りかかります。

Point 3

評価研究者としての研修を積む「福祉プログラム評価履修コース」

博士前期課程のプログラム評価履修コースに加えて、博士後期課程では福祉プログラム評価の知識を養うと共に指導教員の共同研究や外部資金を活用したプロジェクト研究に関わり、プロジェクトマネジャーの経験を通して自立した評価研究者としての研鑽を積みます（福祉プログラム評価履修コースの詳細はp.23をご参照ください）。

Point 4

国内外を舞台に、共同研究員として研究プロジェクトに参加

本学社会事業研究所が行う研究プロジェクトに共同研究員やリサーチ・アシスタントとしての登録を経て、海外の社会福祉研究及び国内の各種社会福祉調査、社会福祉研究プロジェクトに参加し、研究を深めると共に、社会福祉に関する先駆的・実践的研究活動を実現します。また、日本学術振興会「特別研究員他」の獲得に向けた経費の補助を行う等、研究者が広い視野をもって福祉の研究・実施に取り組める環境が整っています。

Point 5

それぞれの研究成果を論文にまとめ、関係学会で発表

大学院生は研究指導の成果を論文にまとめ、学術雑誌に投稿する他、その内容を社会福祉学会など関係学会で報告、発表します。

博士後期課程3年間の流れ



教員×院生 対談



研究大学院

社会福祉学 研究科 博士前期課程

渡久地 美智留 さん

研究大学院

社会福祉学 研究科

菱沼 幹男 教授

自身の問題関心を明確にして他者に伝えることで
切磋琢磨でき、研究が深化していくことを実感

内田 星さんはユースセンターに焦点を当て、家庭や学校以外に居場所を求めるのできない利用者がユースセンターとの出会いから居場所形成される過程を把握し、その中でもロビーワークがどのような役割を果たしているのかを明らかにすることを目標に研究を進めていますね。

星 はい。私は大学時代に教育学の視点から中高生の権利を中心に据えた居場所づくりとは何かを調べていく中でユースセンターを知りました。そこでの活動を調べていくにつれて、教育だけでなく福祉という別の視点からも子どもの居場所について知見を深めたいと考えるようになり、大学院への進学を決意しました。

内田 ゼミでは、教員の側からこういうことをやりなさいと課題を与えるのではなく、入学時に自分が研究したいと考えていたテーマを掘り下げていくことを重視しています。ゼミ生が自分の問題関心に基づいて行うレポートを軸にゼミ生同士で議論を深めてもらい、私からはテーマをいかに深掘りしていくかにあたってのアドバイスをさせてもらっています。

星 以前、私が先行研究の論文について概要のみをレポートしたことがあり、その際に先生から「自分の考えはどう？」と尋ねられたことがありました。自分が論文を読んでどういう考えを持ったのかを先行研究で出された知見と対照し、同意する点と相違する点を明らかにしなさいとアドバイスをいただき、知識を羅列するのではなく自分の考えを固めていくために先行研究を活用することを心がけるようになりました。

内田 私は、皆さんに自分の問題関心を明確にした上で、何を明らかにしたいのかを他者に伝えることができるようになることが大切であると考えています。そのため、ゼミにおいてはただ単に報告するのではなく、質疑応答や論点を設定しての討議を重視しています。

星 自分一人での探求活動には限界がありますが、専門家としての先生のアドバイスや他のゼミ生の意見を通して、自分の研究がどんどん深化していくところに研究大学院で学ぶ面白さを感じています。これからさらに研究を進め、今後の若者支援促進の一助になればと考えています。

実務を通して直面した福祉的課題に
研究に向き合うことでアプローチしていく

渡久地 私は沖縄県内の社会福祉協議会で、生活困窮世帯への生活福祉資金の貸付業務に携わっています。これまでの勤務を通して、同じ社会福祉協議会の中でも生活上の課題に対して個別支援を担う部署と、地域支援を担う部署が連携できていないという現場の課題を見聞してきました。しかしながら、生活困窮に陥った世帯の背景はさまざまで、例えば孤立していて助けを求められない方々には個別支援の他に地域支援も必要になってきます。この問題を解決するにはコミュニティソーシャルワークのアプローチが必要だと考え、職場の研修でこの課題についてお話しくださった菱沼先生の下で学ぶため、研究大学院への進学を決意しました。

菱沼 社会福祉協議会の中で個別支援と地域支援の部署同士は連携していないことが多く、これは沖縄県だけでなく全国的な問題となっています。この課題に焦点を当てた研究はまだ少ないので、先駆的なチャレンジとなる研究テーマであると思います。

渡久地 指導教員である菱沼先生には、自分の研究における疑問点や不安などを率直に相談させていただき、的確にそして優しく丁寧にご指導いただき感謝しています。また、私が沖縄に居住していることにご配慮くださり、オンラインを活用していただいたおかげで、遠方からでも研究を進めることができていますと感じています。

菱沼 研究大学院では、自身の実践を発展させるだけではなく、広く日本全体の福祉をどう前進させるのかといった研究成果の波及性を意識することが大切だと思います。渡久地さんは今回の研究を経て、どんな取り組みをしていきたいと考えていますか。

渡久地 まずは修士論文を完成させ、研究成果を地元の現場の方々へ報告し、還元できたらと考えています。現在は実践者として現場での経験を積んでいるところですが、博士前期課程が修了できたら次は後期課程に進学し、教員や研究者を目指していきたいです。最終的には地元沖縄をフィールドに、自分自身で実践と研究が行える事業所兼研究所を立ち上げ、沖縄や日本の地域福祉に貢献できる実践的な研究者になることが目標です。



研究大学院

社会福祉学 研究科

内田 宏明 准教授

研究大学院

社会福祉学 研究科 博士前期課程

星 海月 さん

教員紹介

QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。

前

後

【略歴】九州保健福祉大学大学院社会福祉学 研究科博士後期課程単位取得退学後、博士(社会福祉学)を取得。筑波大学附属病院等で看護師として勤務した後、看護教員を経て、佐野短期大学(現佐野日本大学短期大学)で介護福祉士養成教育に携わり、2017年より現職。

【主な研究分野】高齢者支援、介護者支援、多職種連携、介護福祉教育

【著書】『介護予防の健康科学－高齢者・障害者のライフスタイル研究－』(共著、不昧堂出版、2008)／『人間関係ハンドブック』(共著、福村出版、2017)／『介護教育方法の理論と実践』(共著、弘文堂、2019)／『新・社会福祉シリーズ21 ソーシャルワーク演習』(共著、弘文堂、2024)など

前期課程の方へ

疑問や関心のある事例を深く掘り下げ、説明するための理論や方法など研究の基礎を修得し、事象を論理的に多角的視点でとらえることが重要です。社会福祉・介護福祉の実践につながる研究成果を期待しています。

後期課程の方へ

高齢者をめぐる課題を中心に、これまでの研究成果を発展させながら、社会福祉・介護福祉に関する創造的・独創的な研究への取り組みを支援します。研究成果が社会貢献につながることを期待しています。

前

後

【略歴】1991年、日本女子大学大学院文学研究科社会福祉学博士前期課程修了(社会学修士)後、日本医科大学第二病院、医療ソーシャルワーカーを経て、2000年、久留米大学文学部社会福祉学科講師、准教授。2005年、日本女子大学大学院人間社会研究科博士後期課程修了(社会福祉学博士)。2007年、東海大学健康科学部、准教授、教授を経て、2015年より現職。【主な研究分野】ソーシャルワーク理論・援助技術開発、保健医療福祉領域、高齢者福祉領域、国際ソーシャルワーク領域

【著書】『統合的短期型ソーシャルワーク－ISTTの理論と実践』(監訳、金剛出版、2014)など

前期課程の方へ

社会福祉実践は理論の両輪で検討する必要があります。前期課程を通して、社会の動向を見据えた重要な研究テーマに取り組み、その成果を社会に還元してほしいと願っています。

後期課程の方へ

後期課程では、社会福祉を実学として客観的にエビデンスを提示し、研究テーマに沿って検証していくプロセスが必要です。各自のテーマを博士論文にする道りは容易なことではありませんが、貴方の研究が社会に貢献できることを期待しています。

前

後

【略歴】1993年、関西学院大学大学院社会学研究科博士前期課程修了(社会学修士)。1995年、(米国)コネチカット大学ソーシャルワーク大学院修士課程修了(Master of Social Work)。2010年、関西学院大学大学院人間福祉研究科博士後期課程修了(博士・人間福祉)。社会福祉法人愛和会・中筋児童館館長、京都光華女子大学准教授等を経て、現職。【主な研究分野】子育て支援、社会的養護、ソーシャルワーク実践理論・方法論

【著書】『被虐待児の専門里親支援－M-D&Dにもとづく実践モデル開発－』(相川書房、2012)／『子ども家庭福祉<第3版>』(共編著、ミネルヴァ書房、2021)／『ソーシャルワーク論』(共編著、ミネルヴァ書房、2019)など

前期課程の方へ

自身の研究においてソーシャルワークのどのような価値と理論をもって事象を説明立てるのか、あるいは実践のあり方等を実証していくのか、社会に対するアカウンタビリティを果たしうる研究の基礎力を養いましょう。

後期課程の方へ

ソーシャルワークの価値や実践理論等理論的枠組みをもって、客観的にエビデンスを導く実証的なソーシャルワーク研究を志向していきます。そのためのクリティカルな思考や研究方法を習得する個別指導やピアの良さを活かした授業・ゼミを行っています。

前

【略歴】1982年、東京大学理学部物理学科卒業。1987年、東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士号取得。理化学研究所、Drexel大学、South Carolina州立大学、東京工業大学でポストドクトラルフェロー後、東京医科歯科大学助手を経て、1999年より日本社会事業大学助教授。2005年より同教授。

【主な研究分野】福祉で用いる統計学、理論物理学など

前期課程の方へ

データに基づいた論文を理解し、また、調査結果に基づいて客観的な主張を展開するためには、統計的な考え方や、用いている解析に対する理解が必須です。基本的なところは全員に理解していただきたいと思って授業を担当しています。

前

後

【略歴】日本子ども家庭総合研究所子ども家庭福祉研究部主任研究員。【主な研究分野】子ども家庭福祉、児童相談所、子ども虐待に対する社会的対応、社会的養護、障害児虐待予防など

【著書】『ファミリー・グループ・カンファレンス；子ども家庭ソーシャルワーク実践の新たなモデル』(共訳、有斐閣、2005)／『子ども虐待(新版)』(共著、有斐閣、2008)／『一時保護所の子どもと支援』(共著、明石書店、2009)／『子ども家庭福祉の世界』(共著、有斐閣、2015)／『子ども家庭福祉』(共編著、ミネルヴァ書房、2016)など

前期課程の方へ

ゼミにおける受講生、及び教員との対話を通して、考えを深める作業を大事にしたいと思います。研究テーマに向き合い、考える作業を進める中で、自分自身の「考える」意味や意義も変わってくると思います。こだわりと柔軟さは一見矛盾するようですが、共に大切なものです。

後期課程の方へ

自立した研究者として、考える時間と過程を大切にしてください。文献を整理し、論文の焦点を絞る過程では、自分自身の持つ価値観や研究の意味に迷うことも多いことと思います。自分自身が対象の本質を捉えているのかを問い、研究の社会的意義を見失わずに研究を深めていただきたいと思います。

前

【略歴】新潟医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科准教授、昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科准教授を経て現職。

【主な研究分野】福祉法学、司法福祉

【著書】『福祉と医療の法学』(インデックス出版、2001)／『ホームヘルパーの医療行為』(共著、一橋出版、2002)／『介護福祉のための法学』(編著、弘文堂、2008)

前期課程の方へ

高齢者保健福祉の関連法について学び、解釈の論理について理解を深める。自己の課題とする法現象を体系的に考察する。係る法は多岐にわたるが、法の趣旨並びに法理を探り、その価値や制度リスクを研究する。

前

【略歴】日本大学大学院博士後期課程満期退学。1987年から1996年まで聖マリアンナ医科大学病院神経精神科において診療技術員として痴呆性老人デイケア及び家族支援を行う。1996年より本学社会福祉学部の教員となり、現在に至る。【主な研究分野】認知症高齢者の支援(直接援助における対応、在宅介護、家族援助)、高齢者のグループワークの方法論、認知症高齢者の環境を活かした支援(特に環境づくり)、認知症の普及啓発などによる地域支援、地域包括ケアシステムにおける医療・保健・福祉の連携

【著書】『写真で見せる回想法』(共編著、弘文堂、2004)／『PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル』(共編著、中央法規出版、2010)／『在宅で暮らす認知症のある人のためのケアプラン作成ガイド』(編著、中央法規出版、2013)など

前期課程の方へ

高齢者福祉の特に認知症に関連する領域における福祉・介護の領域の研究は、現実を変えていく実践につながるものが求められます。内外の先行研究の検証及びフィールドワークによる実証的な研究の指導をしています。

前

後

【略歴】筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学、教育学修士。筑波大学教育学系、北海道教育大学釧路校を経て、2001年本学に着任、現在に至る。【主な研究分野】教育福祉論、福祉教育実践論、福祉科学習指導論、学校カリキュラムの歴史と理論

【著書】『福祉科指導法入門』(共編著、中央法規出版、2002)／『あっ!こんな教育もあるんだ』(共編著、評論、2006)／『高校福祉科卒業生のライフコース』(共編著、ミネルヴァ書房、2008)／『いのち輝く』(共編著、ルック、2008)／『希望をつむぐ教育』(共編著、生活ジャーナル、2018)など

前期課程の方へ

子どもの貧困と地域振興、高等学校の教育課程改革、教師教育に研究関心があります。教育福祉と福祉教育の関連を探究するべく、多角的な視野から現実を切り取り、学際的に探究する手法を重視しています。

後期課程の方へ

教育福祉と福祉教育の関連を、歴史的かつ哲学的、学際的に探究します。最新の知見を取り入れつつ独立した研究の成果としてまとめていきます。

教員紹介



鶴岡 浩樹 教授

前 後

【略歴】1993年、順天堂大学医学部卒業。自治医科大学地域医療学教室、岩手県盛沢町民病院内科、ケース・ウェスタン・リザーブ大学家庭医療学講座、自治医科大学附属病院総合診療部外来医長を経て、2007年つるかめ診療所開設。2013年より現職。
【主な研究分野】地域医療、在宅医療、EBM、介護ロボット、多職種連携
【著書】『介護・福祉リーダーのためのチームマネジメント』（共著、中央法規、2019）／『医学概論』（共編、ミネルヴァ書房、2021）／『スゴくわかる！すぐ役立つ！ケアマネ・介護職のための医学知識ガイド』（単著、中央法規、2023）



前期課程の方へ

地域医療に関わる研究は現場に焦点を当てます。疾病の他、患者と家族、それを支える地域や社会など研究対象は広範囲です。量的研究、質的研究、ミックス法など多角的なアプローチを駆使し現場の不思議に迫ります。

後期課程の方へ

前期課程で身につけた知識、技術、価値観を高められるよう医学研究の立場から助言します。研究課題を多角的な視点で見つめ、エビデンスに基づく論理的思考を磨き、現場のための研究者を育みたいと思います。



菱沼 幹男 教授

前

【略歴】1994年、本学社会福祉学部卒業。2001年、本学大学院博士前期課程修了。2010年、本学大学院博士後期課程修了（社会福祉学博士）。社会福祉協議会職員、高齢者デイサービスセンター生活相談員、大妻女子大学実習講師、文京学院大学助教等を経て現職。社会福祉士・介護支援専門。
【主な研究分野】地域福祉、高齢者福祉、コミュニティソーシャルワーク
【著書】『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共編著、中央法規出版、2014）／『福祉のまちづくりの検証』（共著、彰国社、2013）など



前期課程の方へ

国は地域共生社会の実現に向けて包括的支援体制の構築を目指しています。この具現化のためにはコミュニティソーシャルワークの機能が重要であり、実践現場における課題解決の方策を追求していきます。



蒲生 俊宏 特任教授

前

【略歴】筑波大学博士課程心身障害学研究科中途退学。国立秩父学園（国立知的障害児施設）指導課（厚生教官・児童指導員）。日本社会事業学校専任教員（実習主任）を経て日本社会事業大学社会福祉学部教員。【主な研究分野】日本知的障害児施設史研究、施設福祉と従事者（養成）・障害者福祉と障害者教育の歴史【著書】第四章 福祉施設における学校教育の補完とその独自性」中村満紀男（編著）『日本障害児教育史〔戦後編〕』（分担執筆、明石書店、2019）／『久保寿保久』津曲裕次（監修）『天地を拓く 知的障害福祉を築いた人物伝』（共著、日本知的障害者福祉協会、2013）／『知的障害者教育・福祉の歩み 滝乃川学園百二十年史』（分担執筆、滝乃川学園、2011）など



前期課程の方へ

日本知的障害児施設史研究を中心に、社会事業や特殊教育の歴史に学びます。現場に残されている一次史料（データ）に向き合い、そこから何が見えてくるのかを共同討議したいと思います。



ヴィラーグ ヴィクトル 准教授

前

【略歴】プタベスト出身。東京大学卒業後、本学大学院修了（社会福祉学博士）。日本学術振興会特別研究員や長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科／大学院社会福祉学専攻専任講師などを経て現職。アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟（APASWE）理事、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）アジア太平洋地域会長特別補佐及び財務担当などを経験。
【主な研究分野】多様性に対応したソーシャルワーク、国際社会福祉、グローバルソーシャルワーク、グローバルソーシャルワーク教育
【著書】『多様性時代のソーシャルワーク：外国人等支援の専門職教育プログラム』（単著、中央法規、2018）／『Global Agenda for Social Work and Social Development: Strengthening Recognition of the Importance of Human Relationships』（共著、IFSW、2020）／『介護・福祉の現場でともに学び、働くための外国人スタッフの理解』（単著、中央法規、2021）／『国際ソーシャルワークを知る：世界で活躍するための理論と実践』（共著、中央法規、2022）／『Remaking Social Work for the New Global Era』（共著、Springer、2022）など



前期課程の方へ

常にグローバルな視点と多様性の視点を念頭に、社会福祉的な課題及びソーシャルワーク実践について、国際的にも通用する学術研究に求められる。『当たり前』『常識』に挑戦し続けるクリティカルな思考と、科学的なエビデンスに基づく論理性を持ち合わせながら、一緒に探求していきます。



賛川 信幸 教授

前 後

【略歴】2008年、東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。博士（保健学）。NPO法人地域精神保健福祉機構（コンボ）研究員、本学非常勤講師を経て、現職。
【主な研究分野】精神保健福祉、福祉プログラム開発・改善と評価
【著書】『心理社会的介入プログラム実施・普及ガイドラインに基づく心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキット』（分担著、NPO法人コンボ、2011）／『実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法』（共編著、日本評論社、2019）など



前期課程の方へ

福祉課題の解決のために「なぜそうなのか」を根拠をもって他者と共有できる形で生み出し、発信する「研究ガ」の習得を目指します。私の専門は精神保健福祉分野ですが、福祉分野横断的に福祉課題を扱います。

後期課程の方へ

博士前期課程の内容をさらに掘り下げます。海外の文献レビューも積極的に取り入れ、国際的な知見も踏まえて研究を進め、国際的にも発信できる研究者を目指して指導します。



村田 文世 教授

前 後

【略歴】1983年、東京女子大学文理学部史学科卒業。外資系企業勤務等を経て、2007年、日本女子大学大学院人間社会研究科博士課程修了（社会福祉学博士、社会福祉士）。九州看護福祉大学専任講師、准教授を経て2013年に本学着任、現在に至る。
【主な研究分野】社会福祉政策（サービス供給論）、公私協働論、民間非営利組織論
【著書】『福祉多元化における障害当事者組織と“委託関係”』（ミネルヴァ書房、2009、第7回日本社会福祉学会奨励賞受賞）、『社会福祉への招待』（分担、放送大学教育振興会、2016）など



前期課程の方へ

福祉多元化に伴い多様な民間組織がサービス供給主体となるなか、NPOでは組織や事業活動の変容等の課題も顕在化しています。官から民への政策動向が福祉サービスに与える影響、従来の枠組みを超えた社会福祉法人やNPO法人等の福祉経営を研究領域としています。

後期課程の方へ

①研究課題に関する概念やキーワードの明確化、②先行研究の体系的整理、③理論枠組の構築、④研究方法の検討、⑤調査等の実施、⑥論文執筆の過程を通して、理論と実践の矛盾、政策が実践に及ぼすコンフリクト等、社会福祉の本質に迫る社会福祉研究者の育成を目指します。



壬生 尚美 特任教授

前 後

【略歴】関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了、博士（臨床福祉学）を取得。特別養護老人ホームの介護職員等を経て、中部学院大学短期大学部、大妻女子大学にて介護福祉士養成教育に携わり2017年4月より現職。
【主な研究分野】高齢者福祉施設介護の歴史、介護福祉実践方法、介護福祉教育など
【著書】『戦後高齢社会基本文献集解説・解題』（共著、日本図書センター、2007）／『事例で学ぶ生活支援技術習得』（共編著、日経研、2008）／『特別養護老人ホームにおけるケアの実践課題』（単著、ドメス出版、2017）／『最新介護福祉士養成講座7生活支援技術II』（共編著、中央法規出版、2019）／『介護教育方法の理論と実践』（共著、弘文堂、2019）



前期課程の方へ

介護を取り巻く状況は厳しく様々な課題が顕在化しています。各自の問題意識を、講義・演習を通し価値あるものに高め、掘り下げ発展させることで、今後の介護の質を高める実践に資することを期待しています。

後期課程の方へ

特に高齢者介護福祉の直接支援に関連した実践研究を探究します。各自の研究課題を十分練り上げてください。研究のための研究ではなく、社会に貢献できる実践に役立つ研究成果を期待しています。



内田 宏明 准教授

前

【略歴】東洋大学大学院博士後期課程単位取得退学。養護老人ホーム相談員、障碍者就労支援員、スクールソーシャルワーカー、長野大学実習助手、法政大学実習指導講師、飯田女子短期大学准教授を経て現職。
【主な研究分野】スクールソーシャルワーク、学校福祉、子どもの権利
【著書】『再構児童福祉—子どもたち自身のために—』（共著、筒井書房、2014）／『まちいっぱいの子どもの居場所』（共編著、子どもの風出版会、2019）／『入門スクールソーシャルワーク論』（編著書、ミネルヴァ書房、2022）など



前期課程の方へ

「子どもの権利」擁護を焦点として、スクールソーシャルワークの地域展開、学校福祉論の研究を進めている。また、社会福祉の原理論についても学びを深めたいと考えている。



宇野 耕司 准教授

前

【略歴】児童養護施設等での実務を経験した後、2013年、本学大学院博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。目白大学准教授を経て、現職。
【主な研究分野】子ども虐待、子ども家庭福祉領域における援助・支援、子育て支援を含む社会的養育領域における実践と研究
【著書】『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』（中央法規出版共著）『ワークブック はじめての子育てと子育て支援』（学術研究出版）



前期課程の方へ

子ども家庭福祉領域の実践課題の解決に関心があります。実践を観察・記述し、研究テーマを明確にします。そして、研究テーマに関する先行研究をレビューし、実践課題を研究課題として説明し、問いを立て、その答えを見つけるために実証的な方法を用いて研究に挑みます。



佐々木 貴雄 准教授

前 後

【略歴】2006年一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）。東京福祉大学専任講師・准教授を経て2023年より現職。
【主な研究分野】医療保険制度における保険者、高齢者を対象とした医療保障、社会の変化に対応した社会保障制度
【著書】『厚生（労働）白書を読む：社会問題の変遷をどう捉えたか』（分担執筆、ミネルヴァ書房、2018）『世界はなぜ社会保障制度を創ったのか：主要9カ国の比較研究』（分担執筆、ミネルヴァ書房、2014）



前期課程の方へ

前期課程では、まず研究論文の書き方をしっかりと理解することが求められます。先人の研究との対話の中で自ら考え、さらに考えを突き詰めたうえで論文にまとめていく楽しさをぜひ知ってほしいと思います。

後期課程の方へ

後期課程では、博士論文の執筆だけでなく、投稿論文や学会などで自らの研究を発表することが求められます。本大学院での研究をもとにして、ぜひ積極的に様々な学会や研究会に参加することを心掛けてください。



亀崎 美沙子 准教授

前

【略歴】神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士後期課程人間発達専攻修了（教育学博士）。江東区東陽子ども家庭支援センター“みずべ”非常勤職員、東京家政大学家政学部児童学科助教、松山東雲短期大学保育科専任講師、十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科准教授を経て、2024年より本学社会福祉学部および大学院社会福祉学研究科准教授。
【主な研究分野】保育の専門性を基盤とした子育て支援、子育て支援における保育者の葛藤、保育者の専門職倫理
【著書】『子育て支援における保育者の葛藤と専門職倫理—「子どもの最善の利益」を保障するしくみの構築にむけて—』（単著、2023、明石書店）、『保育の専門性を生かした子育て支援—「子どもの最善の利益」をめざして—』（単著、2018、わかば社）など。



前期課程の方へ

保育者が行う乳幼児期の子ども・子育て支援や保育者の専門職倫理に焦点を当て、乳幼児教育・保育との関連から学びを深めます。



修了生の声

※掲載されている内容は取材当時(2024年3月)のものです。



100名を超す実践者に
質問紙調査を実施し
支援の取り組みとの関連を検討

鵜 領太郎さん

2017年3月 専門職大学院 福祉マネジメント研究科 修了
2020年3月 研究大学院 社会福祉学研究科 博士前期課程 修了
静岡福祉大学 社会福祉学部 勤務

研究テーマ

医療機関に所属する精神保健福祉士の
地域移行支援実施と関連する個人・環境要因の検討

本学専門職大学院で得た実践の言語化という知見を、広く一般化するために本大学院で学び直したいと考えるようになり、進学しました。私が取り組んだのは、精神保健福祉士の地域移行支援実施と関連する個人・環境要因の検討です。医療機関に所属する精神保健福祉士の地域移行支援実施と関連する個人・環境要因を検討しました。「仕事の圧迫感」が「退院促進・地域移行支援」の取り組みに関連があることが分かり、個人・環境における要因が精神保健福祉士のソーシャルワーカーとしての実践に関連している可能性を示唆できました。大学院での学びを存分に活用して、学生や実践者、当事者などとソーシャルワークの価値を共有し、地域や社会に働きかけ、ウェルビーイングの向上に寄与したいです。

学びを深めるきっかけ > NPO法人の立ち上げ

精神科病院に勤務した後、地域の仲間とNPO法人を立ち上げ、障害福祉サービスに従事していました。医療機関から地域へと移った際、視野の狭さを痛感しました。自らの実践を研究という視点で振り返りたいと思い、専門職大学院を経て本大学院に進学しました。



先行研究で不明確だった
支援のプログラム理論を
インタビューを通じて検討

小池 康太郎さん

2023年3月 研究大学院 社会福祉学研究科 博士前期課程 修了
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
国府台病院 ソーシャルワーク室 勤務

研究テーマ

精神疾患の親をもつ子どもに対する支援の
プログラム理論に関する予備的検討

現在は精神科医療機関でソーシャルワーカーとして勤務しています。大学時代に研究したことをきっかけに、精神疾患の親をもつ子どもが抱えるさまざまな課題について広い視野で取り組みたいと考えました。先行研究で提案されている支援における、実施主体や実施方法に不明確な点が多いことに気づき、支援の「成り立ち」「プロセスや体制」「効果」「課題」の4つの視点で、支援団体・事業所の方をインタビュー。日本で実施できる支援のプログラム理論構築を検討しました。研究などを通じて大学院で学んだ理論的な思考法は、実際現場で働くなかで大いに役立っています。今後は、多く残されている福祉の現場における課題を、実践と研究の双方向から取り組める存在になりたいです。

学びを深めるきっかけ > 大学時代の講義

大学2年次に精神保健福祉に関する講義を受講したときまで遡ります。それまでほとんど知識がなかったのですが、未知の世界を知りたいと思い受講しました。脱施設化や長期入院といった精神疾患を抱える人々の社会環境には多くの課題があることを学び、課題解決に貢献したいと思ったことです。



すべての学びが
大学教員に求められる
研究スキルを培った

増田 裕子さん

2023年9月 研究大学院社会福祉学研究科 博士後期課程 修了
昭和女子大学 人間社会学部 福祉社会学科 勤務

研究テーマ

育児と介護のダブルケア期に働く女性への支援について

女性の就労という観点から育児支援・親支援について研究し、社会に貢献したいと考え進学しました。入学時点では研究者を志望していましたが、博士後期課程の時に学部生の授業をサポートした経験から、福祉領域で活躍する学生の教育に携わるやりがいを感じ、大学教員の道を選びました。大学院での学びは、研究デザインや先行研究の方法、研究を進めていく上で必要なスキル、研究への向き合い方など、すべてが今の仕事である講義や研究に役立っています。研究・仕事・育児を並立することに苦労しましたが、研究のために使える時間を算出し、課題の提出や研究の報告・発表、論文執筆を行いました。今後は教育者として、学生の可能性を広げられるような講義を展開していきます。

学びを深めるきっかけ > 本学社会福祉学部での学び

本学社会福祉学部を卒業しているので先生方が一人ひとりに寄り添って熱心に指導してもらえる校風だと知っていました。社会福祉の領域を深く学べる環境がそろう、福祉の各領域における著名な先生方が多くいらっしゃるため、どうしても本大学院で学び、研究をしたいと思いました。



目標は
研究と教育の双方ともに尽力できる
大学教員になること

白石 敦子さん

2022年3月 研究大学院 社会福祉学研究科 博士後期課程 修了
立教大学 コミュニティ福祉学部 勤務

研究テーマ

「看取りの社会化」を進展させる「高齢者『看取り』支援」

博士論文では、高齢者とその家族等を対象とする、死を迎える前後で途切れることのないシームレスで包括的な「看取り」支援について研究しました。高齢者を主な対象とする終活支援事業や、看取りを行う家族等を対象とする支援事業といった、市町村が実施している先進的事業について分析し、「看取り」支援の制度化を促進する要因と今後の方向性を明らかにしました。

博士論文のテーマを発展させる研究を進めると同時に、地域や社会に貢献できるソーシャルワーカーの育成に携わり、研究と教育の双方ともに尽力できる大学教員になることが目標です。高齢者とその家族等、さらには、すべての人が、人生の最期まで、安心して心穏やかに暮らせるような社会の実現に貢献できればと思っています。

学びを深めるきっかけ > 研究成果を卒論にまとめたこと

一般企業に勤務していた際、介護用品の商品開発に携わり、高齢者福祉に関心を持ちました。社会福祉士の資格取得を目指して、本学社会福祉学部へ編入学。社会福祉学について学び、研究成果を卒論にまとめるうちに、もっと学び研究したいと思うようになり、本大学院に進学しました。

修士論文題目(博士前期課程)

2023年度

○児童養護施設のケアワーカーのアセスメントの視点・行動の研究
—家庭的養育に対応する生活支援からの自立支援計画に焦点を当てて—

○児童養護施設職員の勤務継続を促進する職場環境づくりの実践に関する研究
—TOKYO働きやすい福祉の職場宣言に視点を当てて—

○民生委員のソーシャル・キャピタルに関する研究
～委員活動継続に向けて～

○障害のある子どもをもつ保護者への支援に関する研究
—エンパワメントの視点に立った支援に焦点を当てて—

2022年度

○精神疾患の親をもつ子どもに対する支援の
プログラム理論に関する予備的検討

2021年度

○A病院の児童虐待予防に関する地域連携の実態調査

○協働性を高める児童虐待ソーシャルワークに関する研究
—家族とのゴール共有をあきらめない道程に焦点を当てて—

博士論文題目(博士後期課程)

緑字:学位 黒字:題目

2023年度

博甲第85号

○育児と介護のダブルケア期に働く女性への仮説的支援モデルに関する研究
—ワーク・ファミリー・コンフリクトとストレスの視点から—

博甲第86号

○児童養護施設における共感疲労の精緻化に関する研究
—インタビュー調査を通して—

博甲第87号

○保健補導員の高齢者福祉における活動継続に関する研究
—長野県須坂市の事例をもとにして—

2022年度

博甲第84号

○団地高齢者が「住み慣れた我が家で暮らし続ける」ための「出張暮らしの保健室」に関する研究
～訪問看護師と福祉職の協働による効果的支援モデルの提案～

2021年度

博甲第80号

○ひとり暮らし高齢者の「意思決定の準備」に関する研究
—福祉専門職によるアドバンス・ケア・プランニングの発展—

博甲第81号

○「看取りの社会化」を進展させる「高齢者看取り支援」に関する研究
—市町村における先進的事業の分析を通して—

博甲第82号

○がん相談支援センター活用促進要因の探索的研究
—施設の取り組み状況に着目して—

博甲第83号

○The Development of an Effective Program for Promoting the Model of Active Aging in Thailand Utilizing a Care Prevention Program from Japan

学長メッセージ

実践に基づく研究と研究に基づく実践を行う 社会福祉のリーダーを養成する大学院

日本社会事業大学の誇りは、日本で最も古い社会福祉の専門大学として、国から「指導的な社会福祉人材の養成」を委託された大学としての使命をもって、日本の社会福祉をリードした人材を多数養成してきたことにあります。

本学は、こうした使命を果たすために、学部・大学院・通信教育科・附属子ども学園を設けて、総合的な社会福祉の大学として先進的な教育研究体制を整えています。

本学大学院には、福祉社会の創造と福祉文化の発展に貢献するために、福祉マネジメント研究科(専門職大学院)と社会福祉学研究科(研究大学院)が設置されています。福祉マネジメント研究科は実践研究を通じ福祉現場で指導的な役割を担うソーシャルワーク専門職を養成することをめざし、社会福祉学研究科は科学的研究を通じ日本の社会福祉をより良いものに変革する福祉専門家を養成することをめざしています。

皆様には、本学大学院に進学することで、福祉の学部教育だけでは乗り越えられない、また福祉の現場実践だけでは乗り越えられない、福祉分野の諸課題を見据え、自ら研究課題を設定し、先行研究を踏まえ、的確な研究方法に基づき、新たな知見や解決の糸口を探り出し、日本の福祉現場と社会福祉をより良いものに変革くださるよう、心より期待しております。

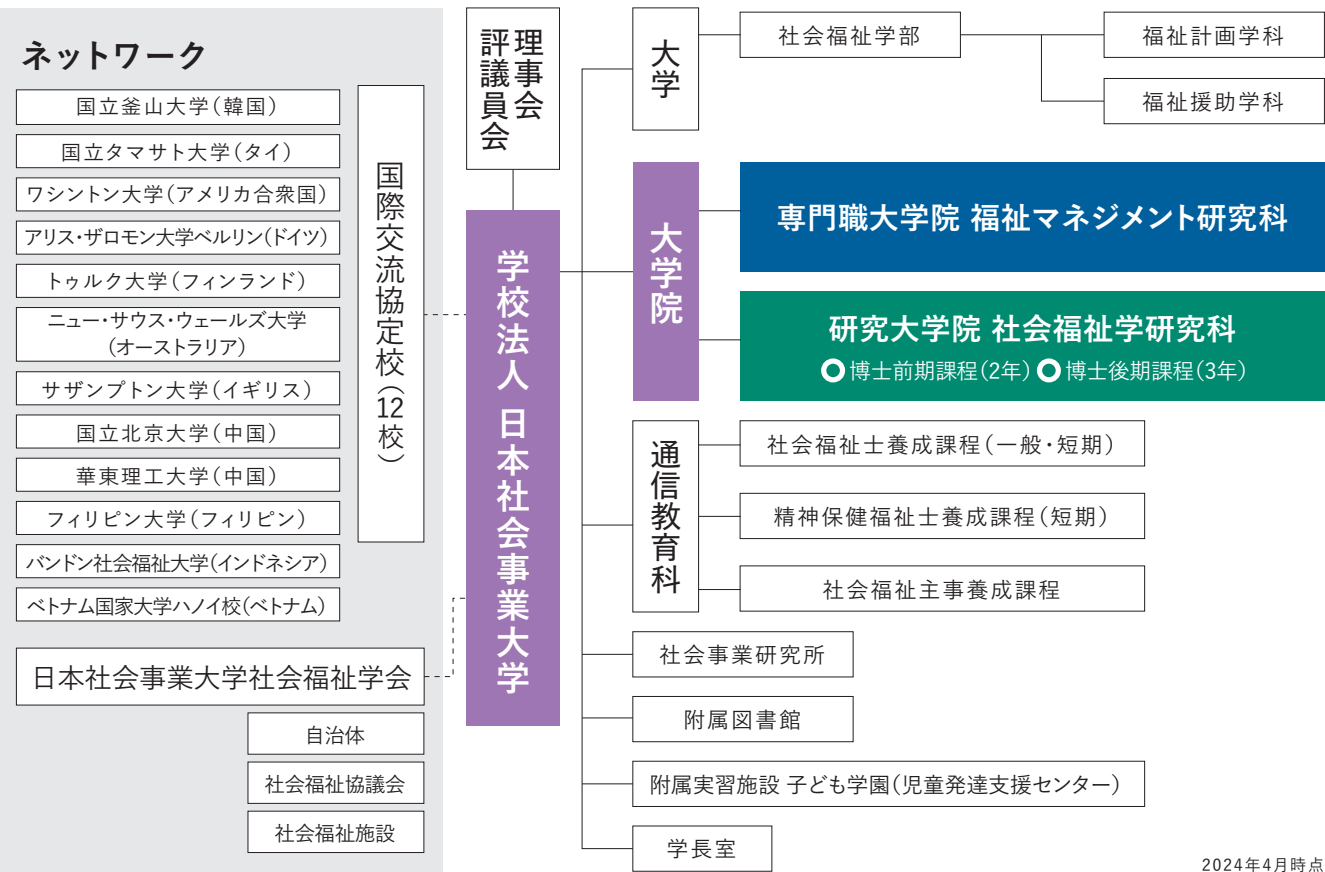


日本社会事業大学
学長 横山 彰

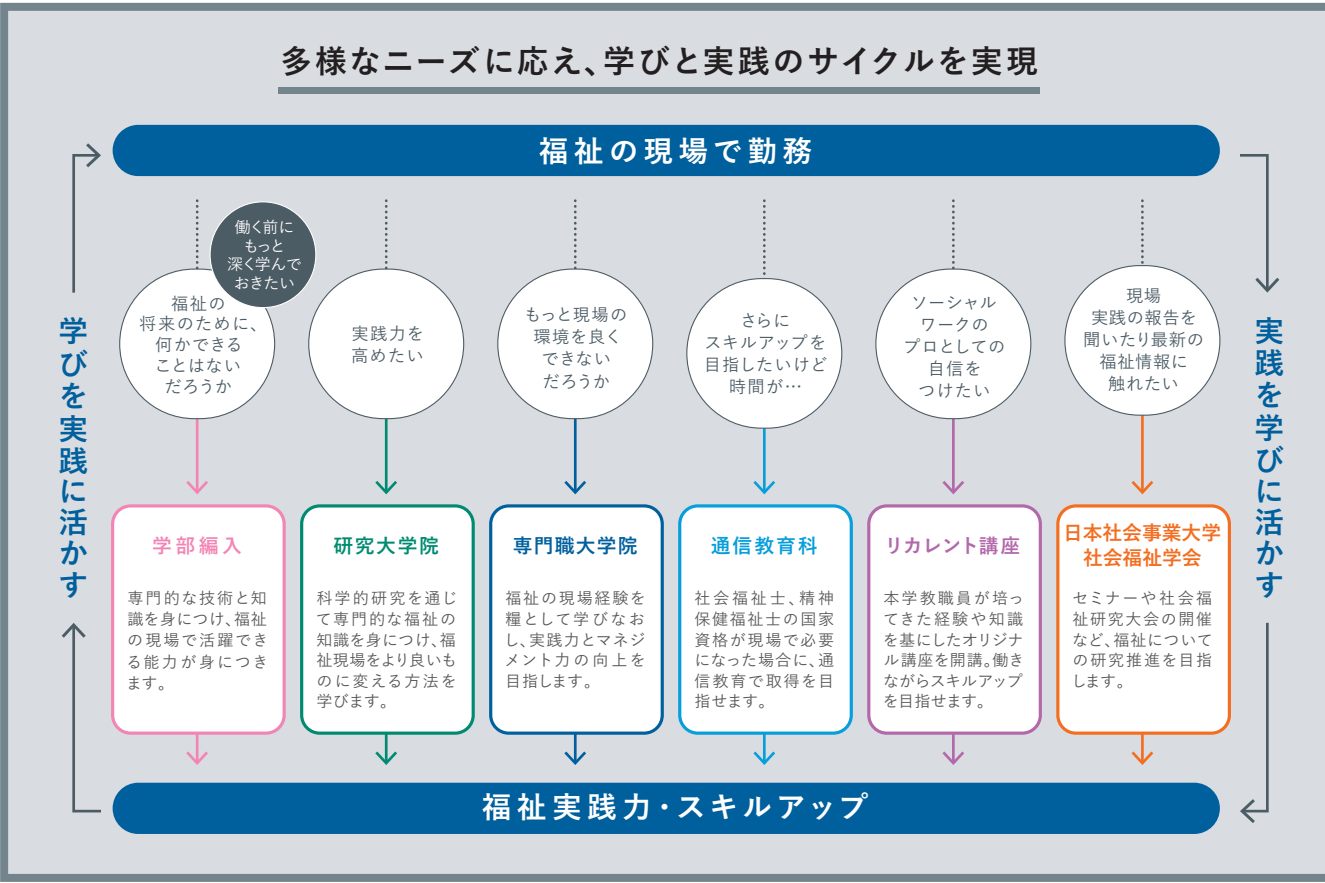
沿革

- 1908 (明治41)年10月
中央慈善協会設立(本学の淵源)
- 1921 (大正10)年3月
社会事業協会設立(中央慈善協会を改称)
- 1924 (大正13)年3月
財団法人中央社会事業協会設立(社会事業協会を改称)
- 1928 (昭和3)年4月
社会事業研究生制度発足
- 1946 (昭和21)年11月9日
日本社会事業学校創立
東京都牛込区原町に開校
- 1947 (昭和22)年4月
財団法人日本社会事業協会設立(財団法人中央社会事業協会を改組)
日本社会事業専門学校開校
- 1948 (昭和23)年1月
東京都渋谷区原宿に移転
- 1950 (昭和25)年4月
日本社会事業短期大学開学
- 1951 (昭和26)年3月
学校法人日本社会事業学校設立(財団法人日本社会事業協会を改組)
- 1958 (昭和33)年4月
日本社会事業大学開学
- 1962 (昭和37)年4月
学校法人日本社会事業大学設立(学校法人日本社会事業学校を改称)
- 1989 (平成元)年4月
東京都清瀬市に校舎移転
大学院社会福祉学研究科修士課程開設
- 1994 (平成6)年4月
大学院社会福祉学研究科博士後期課程設置
- 2004 (平成16)年4月
大学院福祉マネジメント研究科専門職学位課程開設
- 2009 (平成21)年4月
専門職大学院に
長期履修制度(2年履修)を導入
- 2013 (平成25)年4月
附属実習施設「子ども学園」は
児童発達支援センターに改変
- 2016 (平成28)年10月
社会事業研究所に国際・アジア
福祉研究教育センター設置
- 2016 (平成28)年11月
日本社会事業大学 創立70周年
- 2017 (平成29)年4月
ボランティアセンター開設
- 2018 (平成30)年4月
学長室設置
- 2024 (令和6)年4月
大学院福祉マネジメント研究科
創立20周年
- 2026 (令和8)年11月
日本社会事業大学 創立80周年

組織図



2024年4月時点



学費

1年 標準修業年限			専門職大学院 福祉マネジメント研究科	
	費目	1年次		
学費等	入学金	282,000		
	授業料(全納)	535,800		
	教育充実費	300,000		
	諸会費	3,000		
合計(全納)		1,120,800		
授業料(分納)	前期分	852,900		
	後期分	267,900		

- 入学金及び授業料は、文部科学省令に基づく国立大学の入学金及び授業料の標準額に準じて、改正されることがあります。
- 授業料はスライド制を導入しており、在学中に授業料の改正があった場合には、授業料の額を変更することがあります。
- 授業料は前期と後期で分納できます。
- 本学学部を卒業した者、本大学院博士前期課程を修了した者が本大学院に入学する場合は入学金を徴収しません。

博士前期課程 (修士課程)		研究大学院 社会福祉学研究科		
	費目	1年次	2年次	備考
学費等	入学金	282,000	—	入学時のみ
	授業料(全納)	535,800	535,800	
	教育充実費	200,000	180,000	
	諸会費	4,500	—	入学時のみ
合計(全納)		1,022,300	715,800	
授業料(分納)	前期分	754,400	447,900	
	後期分	267,900	267,900	

- 本学学部の卒業生または本大学院専門職学位課程を修了した者が本大学院博士前期課程へ入学した場合は、入学金を徴収しません。
- 授業料は前期と後期で分納できます。

授業料等の延納制度

対象者	条件	種別
専門職大学院・研究大学院の入学生	特別な事情により授業料及び諸納金※の納付が困難である者	延納(授業料・諸納金※)

※教育充実費、諸会費

2年 長期履修の場合		専門職大学院 福祉マネジメント研究科		
	費目	1年次	2年次	合計
学費等	入学金	282,000	—	282,000
	授業料(全納)	267,900	267,900	535,800
	教育充実費	300,000	200,000	500,000
	諸会費	4,500	—	4,500
合計(全納)		854,400	467,900	1,322,300
授業料(分納)	前期分	720,450	333,950	1,322,300
	後期分	133,950	133,950	

博士後期課程 (博士課程)		研究大学院 社会福祉学 研究科			
	費目	1年次	2年次	3年次	備考
学 費 等	入学金	282,000	—	—	入学時のみ
	授業料(全納)	535,800	535,800	535,800	
	教育充実費	200,000	180,000	180,000	
	諸会費	6,000	—	—	入学時のみ
合計(全納)		1,023,800	715,800	715,800	
授業料 (分納)	前期分	755,900	447,900	447,900	
	後期分	267,900	267,900	267,900	

- 本学学部を卒業した者、本大学院博士前期課程または専門職学位課程を修了した者が本大学院博士後期課程へ入学した場合は、入学金を徴収しません。
- 本大学院博士前期課程または専門職学位課程より引き続き入学した者の教育充実費については入学初年度に180,000円を徴収します。
- 授業料は前期と後期で分納できます。

奨学金

名称	条 件	種 別	金 額	返 還	募 集	備 考
大学院学内給費生制度	学業成績・人物ともに優秀で経済的事由により授業料の納付が困難な学生	給 付	授業料年額と教育充実費を合計した額の全額、半額、または25%	返還義務なし	在学生前年度1月 新入生7月	単年度のみ
障害学生奨学金 給付制度	身体等の障害に起因して修学上特別な経済的支出を必要とする学生	給 付	当該学生の年間教育充実費相当額を上限とする	返還義務なし	1 月 ※入学後に申請方法等の詳細を説明します。	単年度のみ。 消耗品など主に物 に対しての給付。給 付は会議にて決定。
独立行政法人 日本学生支援機構 奨学金 第一種	教育・研究者、高度の専門性を要する職業人の養成を目的として貸与するもので、人物・学業ともに特に優れかつ健康であって経済的理由により修学に困難があると認められる者	貸 与	(月額) <博士前期、専門職> 50,000円、88,000円から選択 <博士後期> 80,000円、122,000円から選択	卒業後無利子で返還	4 月	貸与期間は 最短在学年数 ※特に優れた業績による返還免除もあります (第一種)。
独立行政法人 日本学生支援機構 奨学金 第二種			(月額) 50,000円、80,000円、 100,000円、130,000円、 150,000円から選択	卒業後有利子 (利率上限3.0%)で返還		

●その他の奨学金

地方公共団体、民間団体・企業などでは大学院生を対象にした奨学金制度・研究助成金制度などを行っています。個人的に調べた奨学金制度で申し込みをしたいものがありましたら、学生支援課まで相談してください。

また、留学生を対象とした奨学金は、日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費、公益財団法人平和中島財団などの受給実績があります。

これらの奨学金制度の募集時期は、おおむね4月～5月です。

詳細については、各自出身自治体などの関係諸機関、または民間団体・企業などに問い合わせてください。

※障害学生に対する学習環境支援等経費(主に情報保障など人的な支援の経費)の支給制度(当該年度の5月申請)もあります。支給限度額は毎年度設定。

入学後に申請方法等の詳細を説明。支給は会議にて決定。

専門職大学院 福祉マネジメント研究科 対象

専門実践教育訓練給付制度

申請 できる方	本学専門職大学院標準修業年限1年で修了する学生で、受講開始日現在で雇用保険の被保険者であった期間が3年以上(初めての方は当分の間2年以上)等条件を満たした方
給付額	(a)訓練費用の50%(年間40万円上限) (b)受講終了日の翌日から起算して1年以内に一般被保険者として雇用されている場合訓練費用の20%を追加給付 ※(a)(b)合計70%(年間56万円上限) ※ 専門実践教育訓練給付制度は、 受講開始(入学)原則2週間前までに必ず受講申請を終える必要があります。

教育訓練給付制度とは、自ら費用を負担して厚生労働大臣が指定する教育訓練講座を受講し修了した場合、支払った経費の一部を支給する雇用保険の給付制度です。

※申請手続き、支給条件等の詳細につきましては、ハローワークまで問い合わせてください。

進路・就職（継続勤務を含む）

専門職大学院 福祉マネジメント研究科	研究大学院 社会福祉学研究科 博士前期課程	研究大学院 社会福祉学研究科 博士後期課程
専門職大学院生の多くは、仕事と学びを両立させながら、研究に励んでおり、修了後も同一職場で勤務を継続しています。転職・就職を希望する場合は、学生支援課と担当教員でサポートします。	田園調布学園大学 ニチイホールディングス 亀岡市 日本社会事業大学大学院	身延山大学

入試概要

専門職大学院 福祉マネジメント研究科

◆ 2025年度入試概要

入試区分	出願資格		募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
有資格者 入学試験	大学卒業相当者で、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保健師・看護師・保育士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・公認心理師のいずれかの国家資格取得後、社会福祉関連領域の職場において3年以上の実務経験を有する者		50名 (修業年限1年 ただし、長期履修生は2年)	小論文 面接審査 書類審査	第Ⅰ期 11/1(金)～11/15(金)		
一般 入学試験	大学卒業相当者で、3年以上の社会人経験を有する者			小論文 筆記試験(語句説明) 面接審査 書類審査	第Ⅱ期 12/16(月)～1/6(月) 第Ⅲ期 2/3(月)～2/14(金)	第Ⅰ期 12/1(日) 第Ⅱ期 1/26(日)	第Ⅰ期 12/11(水)12:00 第Ⅱ期 1/31(金)12:00
推薦 入学試験	推薦 指定法人 試験	大学卒業相当者で本学が指定する法人の職員であって、原則3年以上の社会福祉関連領域における実務経験を有し、当該法人から推薦が得られる者で、復職が保証されている者		小論文 面接審査 書類審査	第Ⅳ期 2/17(月)～2/28(金)	第Ⅲ期 3/1(土)	第Ⅲ期 3/5(水)12:00
	推薦 地方公共団体 試験	大学卒業相当者で地方公共団体の職員であって、原則3年以上の社会福祉関連領域における実務経験を有し、当該自治体から推薦が得られる者で、復職が保証されている者			Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること (それぞれ11/15、1/6、2/14、3/1の消印有効)	第Ⅳ期 3/9(日)	第Ⅳ期 3/9(日)17:00

※第Ⅳ期については早期に募集人員に達した場合、実施しないことがあります。 ※本学通信教育科を修了し、修了証書の写し(または、修了証明書)を提出した者は、入学検定料が減額されます。
※詳細は「2025年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2024年度入試結果

入試区分	志願者	合格者
有資格者入学試験	29	28
一般入学試験	5	5
学内推薦入学試験	0	0
指定法人推薦入学試験	3	3
地方公共団体推薦入学試験	0	0
計	37	36

※学内推薦入学試験は2024年度で終了しました。

研究大学院 社会福祉学研究科【博士前期課程(修士課程)】

◆ 2025年度入試概要

入試区分	募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
一般入学	社会福祉学専攻 15名 (修業年限2年)	社会福祉及び社会福祉関連科目 小論文・英語・口述試験	前期第Ⅰ期 9/9(月)～9/20(金) 前期第Ⅱ期 12/23(月)～1/10(金)	前期第Ⅰ期 10/5(土) 前期第Ⅱ期 2/13(木)	前期第Ⅰ期 10/16(水)12:00 前期第Ⅱ期 2/26(水)12:00
リカレント入学及び福祉関係職経験者入学		社会福祉及び社会福祉関連科目 小論文・口述試験	Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること (それぞれ9/20、1/10の消印有効)		
学内推薦入学及び留学生入学		小論文・口述試験			

※出願する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡をとり、指導教員となることについて了解を得ることが望ましい。連絡方法については、入試広報課にご確認ください。
※詳細は「2025年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2024年度入試結果

入試区分	志願者	合格者
一般入学	6	4
リカレント入学	0	0
福祉関係職経験者入学	3	3
学内推薦入学	4	4
計	13	11

研究大学院 社会福祉学研究科【博士後期課程(博士課程)】

◆ 2025年度入試概要

入試区分	募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
一般入学	社会福祉学専攻 5名 (修業年限3年)	英語・小論文・口頭試問	12/23(月)～1/10(金) Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること(1/10の消印有効)	2/14(金)	2/26(水)12:00
学内推薦入学		小論文・口頭試問			

※出願する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡をとり、指導教員となることについて了解を得ることが望ましい。連絡方法については、入試広報課にご確認ください。
※詳細は「2025年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2024年度入試結果

志願者	合格者
3	3

説明会開催日程

大学院案内だけでは伝えきれない両大学院の魅力をお伝えします。
詳細はホームページで確認の上、ご参加ください。

■ 専門職大学院 開催日程

日程	開催時間	内容	開催方法	会場
7月20日(土)	10:30～12:00	説明会・個別相談	オンライン	－
8月30日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
10月5日(土)	10:00～11:30 11:45～13:30	模擬授業 説明会・個別相談	オンライン	－
11月1日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
11月9日(土)	10:00～11:30 11:45～13:30	模擬授業 説明会・個別相談	オンライン	－
12月14日(土)	10:00～11:30 11:45～13:30	模擬授業 説明会・個別相談	オンライン	－
1月11日(土)	10:00～11:30 11:45～13:30	模擬授業 説明会・個別相談	オンライン	－
2月8日(土)	11:45～13:30	説明会・個別相談	オンライン	－
2月21日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	オンライン	－

※開催方法がハイブリッドの時は、対面かオンラインを選択できます。

■ 研究大学院 開催日程

日程	開催時間	内容	開催方法	会場
7月7日(日)	12:30～16:00	説明会・個別相談	オンライン	－
9月8日(日)	12:30～16:00			
10月26日(土)	12:30～16:00			
11月9日(土)	12:30～16:00			
12月14日(土)	12:30～16:00			

最新情報を
SNSでお届け



LINE X Facebook

説明会や入試日程などの入試情報を
SNSで発信中!

参加方法

本学Webサイトから
お申し込みください。

日程・内容は変更になる場合がありますので、最新情報は本学Webサイトにてご確認ください。

URL <https://jcsww.ac.jp/>

説明会の参加には
予約が必要です。

予約はこちらから▶



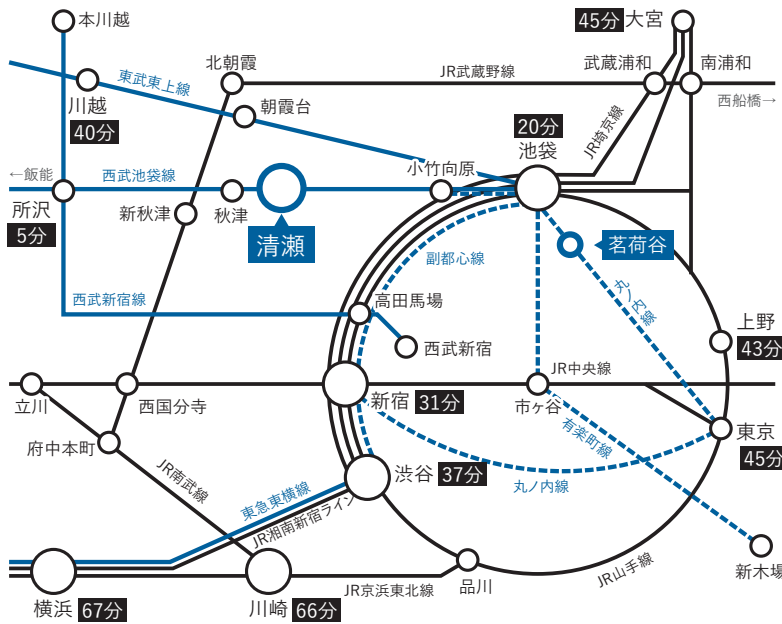
お問い合わせ

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30 入試広報課
TEL.042-496-3080 FAX.042-496-3081

Access 都心へも快適アクセス 緑豊かな街、清瀬

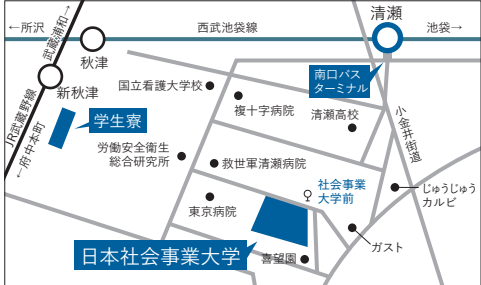
— JR線	— 私鉄線	- - - - 東京メトロ
-------	-------	---------------

※下記の時間は、清瀬駅までの所要時間です。
※所要時間は目安です。乗り継ぎ時間・交通状況により変化する場合があります。



● 清瀬キャンパス(大学・大学院)

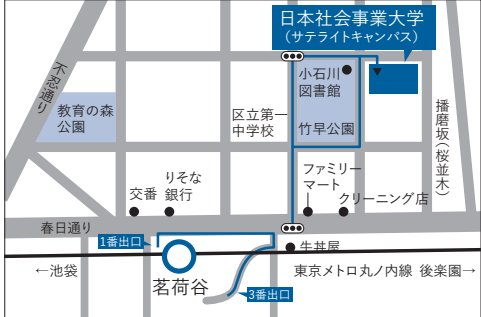
〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30



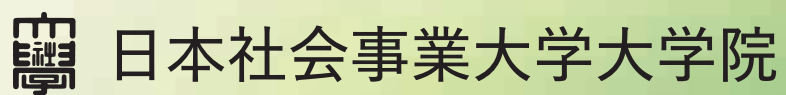
西武池袋線「清瀬」駅下車。南口バスターミナル2番乗り場より、西武バスに乗りし「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ。
・下里 団 地 行(乗車時間6分):「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ
・花小金井駅行(乗車時間6分):「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ
・滝山営業所行(乗車時間6分):「社会事業大学前」下車、徒歩すぐ

● 文京キャンパス(サテライトキャンパス)

〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-12



東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅下車、徒歩5分。駅前より春日通りに出て、後楽園方面へ。ファミリーマート手を左折し、1つ目の信号を右へ。



日本社会事業大学大学院

<https://www.jcsw.ac.jp/>

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

代 表 ／ TEL.042-496-3000 FAX.042-496-3001

入試広報課 ／ TEL.042-496-3080 FAX.042-496-3081